

科目名： < CGS002 > 日本国憲法
担当教員： 金子 匡良(KANEKO Masayoshi)

【授業の紹介】

この授業では、日本国憲法の土台をなす立憲主義およびそれを生み出した歴史的背景について理解した上で、日本国憲法の構造および主要な規定内容について学んでいく。

卒業認定・学位授与の方針における関連項目

- 1．豊かな人間性や主体的に生きる力
- 2．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

学修成果における関連項目

豊かな人間性や主体的に生きる力
課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【到達目標】

この授業は、以下の事項を修得することを目標とする。
憲法の土台をなす立憲主義の内容を理解できる。
立憲主義が誕生した歴史的背景と立憲主義の変遷について理解できる。
日本国憲法の制定経緯について理解できる。
日本国憲法の構造および主要な規定内容を理解できる。
憲法の知識を通じて現代社会の諸問題を分析することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 憲法の歴史 - 立憲主義の成立
 - 第3回 憲法の歴史 - 立憲主義の変遷
 - 第4回 日本国憲法の制定経緯
 - 第5回 日本国憲法の構造
 - 第6回 国民主権
 - 第7回 人権の類型
 - 第8回 人権の享有主体
 - 第9回 表現の自由
 - 第10回 社会権
 - 第11回 参政権
 - 第12回 権力分立
 - 第13回 違憲審査制
 - 第14回 憲法改正
 - 第15回 全体のまとめ（重要点の確認）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業は配布プリントに基づいて行っていくため、授業前の予習として、よくプリントを読んでおき、問題点や疑問点を明らかにし、授業後には復習としてプリントをよく読み直し、事前に抱いた問題点や疑問点が解消できたかを確認する。なお、予習・復習に要する時間は、それぞれ2時間を目安とする。

【成績の評価】

成績評価は、定期試験の点数に基づいて行う（100％）。試験後に試験内容についてフィードバックを行う。

【使用テキスト】

なし。毎回の授業時に配布するプリントに基づいて授業を進める。

【参考文献】

長谷部恭男(解説)『日本国憲法』（岩波文庫、2019年）

科目名： <CCI101> 情報基礎演習【保A】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、情報リテラシーの知識・技能を修得するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけでなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業では、文書作成のためのワープロ（Microsoft Word）の機能について学習し、さらにその間に「情報と社会」というテーマを挿入する形で、情報化社会で適切に行動するために必要な知識について学習します。また、毎回、学習した内容をワープロを用いてレポート（課題）作成しながら、ワープロに関するスキルアップを図ります。また、「数理・データサイエンス」の基礎知識についても併せて学習します。

< 卒業認定・学位授与の方針における関連項目 >

2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
3. 学科が示す専門的知識や技能および実践的能力

< 学修成果における関連項目 >

課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
学科が示す専門的知識や技能および実践的能力

【到達目標】

1. パソコンの代表的な基本ソフトであるWindowsの基本操作ができる。
2. Microsoft Wordを対象としてワープロの主要な機能を使うことができる。
3. ワープロを用いて指定された形式で文書が作成・編集できる。
4. 個人情報保護、情報倫理・情報モラル、知的財産権、ネット犯罪について説明できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【授業計画】

- | | |
|------|---------------------------------|
| 第1回 | 受講ガイダンス、Windowsの基本操作と日本語入力 |
| 第2回 | 文書作成（1） 基本操作と印刷 |
| 第3回 | 文書作成（2） 表の作成 |
| 第4回 | 文書作成（3） 書式の設定 |
| 第5回 | 情報と社会（1） 電子メールによるコミュニケーション |
| 第6回 | 情報と社会（2） 個人情報保護 |
| 第7回 | 文書作成（4） 図・画像などの挿入 |
| 第8回 | 文書作成（5） Webブラウザとの連携 |
| 第9回 | 数理・データサイエンス（1） 数理・データサイエンスとは何か？ |
| 第10回 | 情報と社会（3） 情報倫理・情報モラル |
| 第11回 | 情報と社会（4） 知的財産権 |
| 第12回 | 文書作成（6） 図の作成と編集 |
| 第13回 | 文書作成（7） 縦書き、PDF変換 |
| 第14回 | 情報と社会（5） ネット犯罪 |
| 第15回 | 数理・データサイエンス（2） 身の周りの数理・データサイエンス |
- 定期試験は実施しない。

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、予習として次の時間の教科書の範囲を読み、疑問点や気付いた点をノートにまとめておいてください。予習・復習などの準備学修に必要な時間数は2時間とします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子、大澤栄子著『30時間アカデミック office2021版』（実教出版株式会社
、2022）ISBN:9784407359435

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

科目名： <CCI101> 情報基礎演習【保B】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、情報リテラシーの知識・技能を修得するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけでなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業では、文書作成のためのワープロ（Microsoft Word）の機能について学習し、さらにその間に「情報と社会」というテーマを挿入する形で、情報化社会で適切に行動するために必要な知識について学習します。また、毎回、学習した内容をワープロを用いてレポート（課題）作成しながら、ワープロに関するスキルアップを図ります。また、「数理・データサイエンス」の基礎知識についても併せて学習します。

< 卒業認定・学位授与の方針における関連項目 >

2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
3. 学科が示す専門的知識や技能および実践的能力

< 学修成果における関連項目 >

課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
学科が示す専門的知識や技能および実践的能力

【到達目標】

1. パソコンの代表的な基本ソフトであるWindowsの基本操作ができる。
2. Microsoft Wordを対象としてワープロの主要な機能を使うことができる。
3. ワープロを用いて指定された形式で文書が作成・編集できる。
4. 個人情報保護、情報倫理・情報モラル、知的財産権、ネット犯罪について説明できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【授業計画】

- | | |
|------|---------------------------------|
| 第1回 | 受講ガイダンス、Windowsの基本操作と日本語入力 |
| 第2回 | 文書作成（1） 基本操作と印刷 |
| 第3回 | 文書作成（2） 表の作成 |
| 第4回 | 文書作成（3） 書式の設定 |
| 第5回 | 情報と社会（1） 電子メールによるコミュニケーション |
| 第6回 | 情報と社会（2） 個人情報保護 |
| 第7回 | 文書作成（4） 図・画像などの挿入 |
| 第8回 | 文書作成（5） Webブラウザとの連携 |
| 第9回 | 数理・データサイエンス（1） 数理・データサイエンスとは何か？ |
| 第10回 | 情報と社会（3） 情報倫理・情報モラル |
| 第11回 | 情報と社会（4） 知的財産権 |
| 第12回 | 文書作成（6） 図の作成と編集 |
| 第13回 | 文書作成（7） 縦書き、PDF変換 |
| 第14回 | 情報と社会（5） ネット犯罪 |
| 第15回 | 数理・データサイエンス（2） 身の周りの数理・データサイエンス |
- 定期試験は実施しない。

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、予習として次の時間の教科書の範囲を読み、疑問点や気付いた点をノートにまとめておいてください。予習・復習などの準備学修に必要な時間数は2時間とします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子、大澤栄子著『30時間アカデミック office2021版』（実教出版株式会社
、2022）ISBN:9784407359435

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

科目名： <CCI102> 情報応用演習【保A】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、情報リテラシーの知識・技能を修得するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけでなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、表計算のためのソフトウェア（Microsoft Excel）の機能について学習し、さらに後半で、プレゼンテーションのためのソフトウェア（Microsoft PowerPoint）の機能について学習します。また、「数理・データサイエンス」の基礎知識についても併せて学習します。

< 卒業認定・学位授与の方針における関連項目 >

- 2．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
- 3．学科が示す専門的知識や技能および実践的能力

< 学修成果における関連項目 >

課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
学科が示す専門的知識や技能および実践的能力

【到達目標】

1. Microsoft Excelを対象として表計算ソフトの主要な機能を使うことができる。
2. 表計算ソフトを用いて指定された形式でデータを加工できる。
3. Microsoft PowerPointを対象としてプレゼンテーションソフトの主要な機能を使うことができる。
4. プレゼンテーションソフトを用いて種々のプレゼンテーション資料を作成できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【授業計画】

- | | | |
|------|----------------|------------------------|
| 第1回 | 受講ガイダンス、表計算（1） | 基本操作と印刷 |
| 第2回 | 表計算（2） | 表の作成と基本編集 |
| 第3回 | 表計算（3） | 表の書式設定と印刷（詳細） |
| 第4回 | 表計算（4） | 数式（1） 絶対参照と相対参照、基本関数 |
| 第5回 | 表計算（5） | 数式（2） 順位取得、条件判断 |
| 第6回 | 表計算（6） | 数式（3） 表参照によるデータ取得、端数処理 |
| 第7回 | 表計算（7） | 数式（4） エラー回避、文字列操作 |
| 第8回 | 表計算（8） | グラフと図形 |
| 第9回 | 数理・データサイエンス（1） | Excelを使ったデータ処理の基礎 |
| 第10回 | プレゼンテーション（1） | 基本操作と印刷 |
| 第11回 | プレゼンテーション（2） | 図やオブジェクトの挿入 |
| 第12回 | プレゼンテーション（3） | SmartArt、グラフ、表の挿入 |
| 第13回 | プレゼンテーション（4） | 特殊効果と自動実行 |
| 第14回 | プレゼンテーション（5） | 他のソフトウェアとのデータ連携 |
| 第15回 | 数理・データサイエンス（2） | データは人を騙す |

定期試験は実施しない

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、予習として次の時間の教科書の範囲を読み、疑問点や気付いた点をノートにまとめておいてください。予習・復習などの準備学修に必要な時間数は2時間とします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック office2021版』（実教出版株式会社，2022）ISBN: 9784407359435

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

科目名： <CCI102> 情報応用演習【保B】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、情報リテラシーの知識・技能を修得するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけでなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、表計算のためのソフトウェア（Microsoft Excel）の機能について学習し、さらに後半で、プレゼンテーションのためのソフトウェア（Microsoft PowerPoint）の機能について学習します。また、「数理・データサイエンス」の基礎知識についても併せて学習します。

< 卒業認定・学位授与の方針における関連項目 >

- 2．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
- 3．学科が示す専門的知識や技能および実践的能力

< 学修成果における関連項目 >

課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
学科が示す専門的知識や技能および実践的能力

【到達目標】

1. Microsoft Excelを対象として表計算ソフトの主要な機能を使うことができる。
2. 表計算ソフトを用いて指定された形式でデータを加工できる。
3. Microsoft PowerPointを対象としてプレゼンテーションソフトの主要な機能を使うことができる。
4. プレゼンテーションソフトを用いて種々のプレゼンテーション資料を作成できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【授業計画】

- | | | |
|------|----------------|------------------------|
| 第1回 | 受講ガイダンス、表計算（1） | 基本操作と印刷 |
| 第2回 | 表計算（2） | 表の作成と基本編集 |
| 第3回 | 表計算（3） | 表の書式設定と印刷（詳細） |
| 第4回 | 表計算（4） | 数式（1） 絶対参照と相対参照、基本関数 |
| 第5回 | 表計算（5） | 数式（2） 順位取得、条件判断 |
| 第6回 | 表計算（6） | 数式（3） 表参照によるデータ取得、端数処理 |
| 第7回 | 表計算（7） | 数式（4） エラー回避、文字列操作 |
| 第8回 | 表計算（8） | グラフと図形 |
| 第9回 | 数理・データサイエンス（1） | Excelを使ったデータ処理の基礎 |
| 第10回 | プレゼンテーション（1） | 基本操作と印刷 |
| 第11回 | プレゼンテーション（2） | 図やオブジェクトの挿入 |
| 第12回 | プレゼンテーション（3） | SmartArt、グラフ、表の挿入 |
| 第13回 | プレゼンテーション（4） | 特殊効果と自動実行 |
| 第14回 | プレゼンテーション（5） | 他のソフトウェアとのデータ連携 |
| 第15回 | 数理・データサイエンス（2） | データは人を騙す |

定期試験は実施しない

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、予習として次の時間の教科書の範囲を読み、疑問点や気付いた点をノートにまとめておいてください。予習・復習などの準備学修に必要な時間数は2時間とします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック office2021版』（実教出版株式会社，2022）ISBN: 9784407359435

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

科目名： <CCE101> 英語 【保】
担当教員： 上村 秀樹(UEMURA Hideki)

【授業の紹介】

世界中の国々と文化や人的交流が活発に行われている現代社会においては、他文化・他言語への対応が強く求められています。保育の現場においても、外国人の保護者や園児と接する機会が増えています。また、外国語活動が導入されている保育園や幼稚園も見受けられますが、そのような中、様々な状況下において英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲と能力を養うことが大切になってきます。本講座ではそのような現状を踏まえて、現在、園で行われている「新学期」「あそび」「けんか」「おはなし」「お昼寝」といった様々な状況を想定し、即戦力となる英語学習を進めていきます。併せて、就職試験のための問題演習や、社会生活で必要とされる英語の常識の学習にも取り組んでいきます。

様々な課題が課されるので、受講生は家庭での予習・復習を中心として、継続的な学習が必要とされます。なお、毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用するので必ず持参してください。

受講者は Google Classroom（クラスコード：p7jyynv）に登録してください。

前期に英語・ の両方を履修することは可能ですが、後期に開講される英語 を必ず履修するものとします。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

1. 豊かな人間性や主体的に生きる力
2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
3. 学科が示す専門的知識や技能および実践的能力

<学修成果における関連項目>

豊かな人間性や主体的に生きる力
課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
学科が示す専門的知識や技能および実践的能力

【到達目標】

1. 保育の現場で外国人の保護者や園児にも対応できる、基礎的な英語力を身に付けることができる。
2. 園生活の様々な場面で使われる英語に親しむことができる。
3. 園児たちと簡単な英語を使って遊ぶことができる。
4. 保育士や幼稚園教諭に必要とされる実践的指導力を総合的に身に付けることができる。
5. 豊かな人間性や主体的に生きる力を身に付けることができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

- Lesson 1 The School Year Begins（前半）
- 第2回 Lesson 1 The School Year Begins（後半）
- 第3回 Lesson 2 Arrival（前半）
- 第4回 Lesson 2 Arrival（後半）
- 第5回 Lesson 3 Playtime in the Classroom
- 第6回 Lesson 4 In the Sandbox
- 第7回 Lesson 5 In the Playground（前半）
- 第8回 Lesson 5 In the Playground（後半）
- 第9回 Lesson 6 Lunchtime
- 第10回 Lesson 7 Changing Clothes and Story Time（前半）
- 第11回 Lesson 7 Changing Clothes and Story Time（後半）
- 第12回 Lesson 8 Nap time
- 第13回 Lesson 9 Blowing Bubbles（前半）
- 第14回 Lesson 9 Blowing Bubbles（後半）
- 第15回 English Song

定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業の予習・復習（1授業時間につき1時間）を大切に、英和辞典を使って様々な語彙や表現に慣れ親しみ、繰り返し英文を音読してください。就職試験問題演習のための予習も必要です。また、英単語テストのための学習、英語の歌の歌唱練習、英文朗読練習なども求められます。

【成績の評価】

概ね、英単語テスト(10%)、提出課題(20%)、授業時間外の様々な課題(10%)、授業への取り組みの姿勢や意欲(10%)、定期試験(50%)の5点を総合して評価します。授業時間外の様々な課題として、英語による歌唱発表や英文朗読課題などが課されることもあります。小テスト、その他の様々な課題、試験等については、その都度結果を講評し、フィードバックを行います。なお、30分以上の遅刻は欠席として、また、遅刻3回で欠席1回として扱います。

【使用テキスト】

森田和子著『新・保育の英語』（三修社、2021年）

【参考文献】

なし

科目名： <CCE102> 英語 【保】
担当教員： 上村 秀樹(UEMURA Hideki)

【授業の紹介】

世界中の国々と文化や人的交流が活発に行われている現代社会においては、他文化・他言語への対応が強く求められています。保育の現場においても、外国人の保護者や園児と接する機会が増えています。また、外国語活動が導入されている保育園や幼稚園も見受けられますが、そのような中、様々な状況下において英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲と能力を養うことが大切になっています。本講座ではそのような現状を踏まえて、現在、園で行われている「運動会」「散歩」「お絵かき」「工作」「降園」といった様々な状況を想定し、英語に引き続き、即戦力となる英語学習をさらに進めていきます。併せて、就職試験のための問題演習や、社会生活で必要とされる英語の常識の学習にも取り組んでいきます。

様々な課題が課されるので、受講生は家庭での予習・復習を中心として、継続的な学習が必要とされます。なお、毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用するので必ず持参してください。

受講者は Google Classroom（クラスコード：p7jyynv）に登録してください。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

1. 豊かな人間性や主体的に生きる力
2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
3. 学科が示す専門的知識や技能および実践的能力

<学修成果における関連項目>

豊かな人間性や主体的に生きる力
課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
学科が示す専門的知識や技能および実践的能力

【到達目標】

1. 保育の現場で外国人の保護者や園児にも対応できる、基礎的な英語力を身に付け活用することができる。
2. 園生活の様々な場面で使われる英語に親しみ、園児に能動的に関わることができる。
3. 園児たちと基礎的な英語を使って遊び、温かく接することができる。
4. 保育士や幼稚園教諭に必要とされる実践的指導力を総合的に身に付け活用することができる。
5. 豊かな人間性を深めるとともに、主体的に生きる力をさらに高めることができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

- Lesson 10 A Sick Child (前半)
- 第2回 Lesson 10 A Sick Child (後半)
- 第3回 Lesson 11 Preparation for the Sports Day
- 第4回 Lesson 12 The Sports Day
- 第5回 Lesson 13 Going for a Walk (前半)
- 第6回 Lesson 13 Going for a Walk (後半)
- 第7回 Lesson 14 Discovering Autumn (前半)
- 第8回 Lesson 14 Discovering Autumn (後半)
- 第9回 Lesson 15 Drawing & Letter Writing
- 第10回 Lesson 16 A Snowy Day
- 第11回 Lesson 17 Leaving for Home (前半)
- 第12回 Lesson 17 Leaving for Home (後半)
- 第13回 Lesson 18 School Diary
- 第14回 Lesson 19 Bean-Throwing Day
- 第15回 Lesson 20 With Thanks for a Wonderful School Year

定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業の予習・復習（1授業時間につき1時間）を大切に、英和辞典を使って様々な語彙や表現に慣れ親しみ、繰り返し英文を音読してください。就職試験問題演習のための予習も必要です。また、英単語テストのための学習、英語の歌の歌唱練習、英文朗読練習なども求められます。

【成績の評価】

概ね、英単語テスト(10%)、提出課題(20%)、授業時間外の様々な課題(10%)、授業への取り組みの姿勢や意欲(10%)、定期試験(50%)の5点を総合して評価します。授業時間外の様々な課題として、英語による歌唱発表や英文朗読課題などが課されることもあります。小テスト、その他の様々な課題、試験等については、その都度結果を講評し、フィードバックを行います。なお、30分以上の遅刻は欠席として、また、遅刻3回で欠席1回として扱います。

【使用テキスト】

森田和子著『新・保育の英語』（三修社、2021年）

【参考文献】

なし

科目名： <CHH001> 健康とスポーツ
担当教員： 宮本 賢作(MIYAMOTO Kensaku)

【授業の紹介】

成長期から成人期に移行するこの時期に、正しいヘルスリテラシーを身につけるとともに、今後起こりうる健康問題について理解することで、その予防としての運動、食事、休養の重要性と、それをサポートする社会的なシステムについて理解する。またこれらを主体的かつ科学的に捉え、行動変容を意識した実践力と、その基盤となるエビデンスに基づいた健康づくりについて考察する。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

1. 豊かな人間性や主体的に生きる力

<学修成果における関連項目>

豊かな人間性や主体的に生きる力

【到達目標】

健康な生活を営む上で必要な基礎知識の理解を深めることができる。
ヒトの生涯のさまざまな場面で生じる疾病の予防および健康の維持と生体機能の関係について理解を深めることができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション・健康（及び疾病）の概念とヘルスプロモーション
第2回 健康を取り巻く環境についての理解
第3回 健康情報とヘルスリテラシー
第4回 幼少期～成長期の健康問題
第5回 成人期の健康問題
第6回 高齢期の健康問題
第7回 死生観と生命倫理
第8回 健康と運動・労働
第9回 健康と食事・栄養
第10回 健康と休養・睡眠
第11回 喫煙，飲酒，薬物乱用，メディアリテラシーと健康
第12回 運動の科学と健康
第13回 体力の評価と分析
第14回 エビデンスに基づいた医療と健康づくり&持続可能な健康づくり
第15回 まとめ（生涯にわたる健康増進とスポーツライフの継続を目指して）
定期試験

【授業時間外の学習】

毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。

【成績の評価】

成績の評価は学期末試験（60％）、レポート・ミニテスト（30％）、学習態度（10％）によって行い、総計60％以上を合格とします。なお、レポートについては講評や添削を行い返却（フィードバック）します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

シンプル衛生公衆衛生学2022（南江堂）
これからの健康とスポーツの科学 第5版（講談社）

科目名： <CHH002> 健康とスポーツ実習【保A】

担当教員： 奥田 直希(OKUDA Naoki)

【授業の紹介】

この実習の目的は、生涯にわたってスポーツを楽しむ知識・態度・技能を養うことです。そのため、実習のはじめには、文化としてスポーツを捉えることの必要性を説明あるいは表現するとともに、新スポーツの創造活動を通して、スポーツの文化性について理解を深めます。次に、フライングディスク競技（アルティメット）ならびにネット型球技を題材として、スポーツの楽しさを理解し、より深くその楽しさを味わう技能を学びます。そして、これらスポーツ活動を通して、他者と協力しながらスポーツを楽しむ態度を身につけます。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

1. 豊かな人間性や主体的に生きる力
3. 学科が示す専門的知識や技能および実践的能力

<学修成果における関連項目>

豊かな人間性や主体的に生きる力
学科が示す専門的知識や技能および実践的能力

【到達目標】

1. 文化としてのスポーツの捉え方を理解できる
2. 新スポーツを企画・実行できる
3. スポーツの楽しさを理解し表現できる
4. 他者と協力しスポーツを楽しむことができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 新スポーツ創造の意義
 - 第3回 新スポーツの創造：発案
 - 第4回 新スポーツの創造：計画
 - 第5回 新スポーツの創造：修正
 - 第6回 新スポーツの創造：発表
 - 第7回 新スポーツの創造：実践
 - 第8回 アルティメット（1）：ルールを理解する
 - 第9回 アルティメット（2）：技能を理解する
 - 第10回 アルティメット（3）：競技を楽しむ
 - 第11回 ネット型球技（1）：バドミントンの改良
 - 第12回 ネット型球技（2）：バドミントンの実践
 - 第13回 ネット型球技（3）：バレーボールの改良
 - 第14回 ネット型球技（4）：バレーボールの実践
 - 第15回 ネット型球技（5）：インディアカの実践
- 定期試験は実施しない
天候によって実施種目を変更することがあります

【授業時間外の学習】

実習毎に、実習内容の振り返りや調べ学習課題（新スポーツの企画、表現課題の準備など）といった計15時間の時間外学習課題を指示します。

【成績の評価】

- ・新スポーツの創造に関する課題 70%
- ・小レポート 30%

《フィードバックの方法》

新スポーツの創造に関する課題については、講評を実習時間中に実施することでフィードバックをおこないます。小レポートについては、第15回終了後、オフィスアワーを活用してフィードバックを実施します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

中村敏雄著『スポーツとは何か』（ポプラ・ブックス、1982年） 図書館に配架

科目名： <CHH002> 健康とスポーツ実習【保B】

担当教員： 奥田 直希(OKUDA Naoki)

【授業の紹介】

この実習の目的は、生涯にわたってスポーツを楽しむ知識・態度・技能を養うことです。そのため、実習のはじめには、文化としてスポーツを捉えることの必要性を説明あるいは表現するとともに、新スポーツの創造活動を通して、スポーツの文化性について理解を深めます。次に、フライングディスク競技（アルティメット）ならびにネット型球技を題材として、スポーツの楽しさを理解し、より深くその楽しさを味わう技能を学びます。そして、これらスポーツ活動を通して、他者と協力しながらスポーツを楽しむ態度を身につけます。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

1. 豊かな人間性や主体的に生きる力
3. 学科が示す専門的知識や技能および実践的能力

<学修成果における関連項目>

豊かな人間性や主体的に生きる力
学科が示す専門的知識や技能および実践的能力

【到達目標】

1. 文化としてのスポーツの捉え方を理解できる
2. 新スポーツを企画・実行できる
3. スポーツの楽しさを理解し表現できる
4. 他者と協力しスポーツを楽しむことができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 新スポーツ創造の意義
 - 第3回 新スポーツの創造：発案
 - 第4回 新スポーツの創造：計画
 - 第5回 新スポーツの創造：修正
 - 第6回 新スポーツの創造：発表
 - 第7回 新スポーツの創造：実践
 - 第8回 アルティメット（1）：ルールを理解する
 - 第9回 アルティメット（2）：技能を理解する
 - 第10回 アルティメット（3）：競技を楽しむ
 - 第11回 ネット型球技（1）：バドミントンの改良
 - 第12回 ネット型球技（2）：バドミントンの実践
 - 第13回 ネット型球技（3）：バレーボールの改良
 - 第14回 ネット型球技（4）：バレーボールの実践
 - 第15回 ネット型球技（5）：インディアカの実践
- 定期試験は実施しない
天候によって実施種目を変更することがあります

【授業時間外の学習】

実習毎に、実習内容の振り返りや調べ学習課題（新スポーツの企画、表現課題の準備など）といった計15時間の時間外学習課題を指示します。

【成績の評価】

- ・新スポーツの創造に関する課題 70%
- ・小レポート 30%

《フィードバックの方法》

新スポーツの創造に関する課題については、講評を実習時間中に実施することでフィードバックをおこないます。小レポートについては、第15回終了後、オフィスアワーを活用してフィードバックを実施します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

中村敏雄著『スポーツとは何か』（ポプラ・ブックス、1982年） 図書館に配架

科目名： <CUI121> 子どもと健康（運動遊び）

担当教員： 森本 将行(MORIMOTO Masayuki)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場でクラス担任、運動遊び講師を兼任した経験

を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

乳幼児の発育発達原則を解説した上で、運動発達、基本的生活習慣の形成、安全な生活等の専門的事項を修得します。特に、子どもと運動遊びに着目し、体力の低下（主に基本的動作の未習得）や姿勢の崩れ等の現代の課題への解決に効果的な運動遊びの方法を学びます。

また、保育学科の卒業必修科目です。加えて、幼稚園教諭二種免許状、そして保育士資格取得のための必修科目でもあります。

本授業科目では、課題の指示や提出、連絡事項などにGoogle classroomを活用します。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

指針・要領の理解
保育に関わる専門的知識の習得
表現技術と想像力
保育を計画する力

【到達目標】

1. 健康の定義をふまえて、乳幼児期の健康の意義を理解することができる。
2. 乳幼児の体の発達的特徴を修得することができる。
3. 子どもがたくましく生きるための健康や体力について修得することができる。
4. 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション「健康とは何か」
第2回：領域「健康」の理解と指導法
第3回：幼児の体づくり・動きづくり <道具を使わない運動遊びの体験>
第4回：幼児の体づくり・動きづくり <身近な道具を使った運動遊びの体験>
第5回：幼児の体づくり・動きづくり <簡単なルールや決まりのある運動遊びの体験>
第6回：幼児の体づくり・動きづくり <実技を終えての感想> レポート
第7回：子どもの身体の発達と運動（1） <子どもの体力について>
第8回：子どもの身体の発達と運動（2） <運動発達の特徴について>
第9回：子どもの身体の発達と運動（3） <遊びとしての運動の重要性について>
第10回：子どもの身体の発達と運動（4） <運動発達と環境について>
第11回：子どもの身体の発達と運動（5） <伝承遊びについて> レポート
第12回：子どもの基本的生活習慣の形成
第13回：子どもの安全教育とけがの予防
第14回：子どもの生活と食
第15回：まとめ <授業で学んだこと> レポート
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

予習・・・次回の講義内容を確認し、参考書等で調べ、ノート等にまとめておくこと。（計8時間）
復習・・・毎回の授業を自分なりにまとめること。（計7時間）

【成績の評価】

授業後のレポート：30%

授業態度：40%

グループワーク：30%

全体の60%以上の得点で合格とします。

レポート等の評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

文部科学省編『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館、2018年）

厚生労働省編『保育所保育指針解説』（フレーベル館、2018年）

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館、2018年）

片山喜章編『0～5歳児のちょこっとあそび じっくりあそび196』（ひかりのくに株式会社、2010年）

片山喜章編『運動会イキイキ！ラクラク！種目集』（ひかりのくに株式会社、2013年）

科目名： <CUI241> 子どもと環境【保A】

担当教員： 佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園・こども園での経験を活かし、環境と関わる子どもの具体的な姿や事例を示しながら授業を行います。

本授業では、領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能を身に付けることをめざします。また、特に領域「環境」の指導の基盤となる、現代の乳幼児を取り巻く環境とその現代的課題、乳幼児と身近な環境との関わりの発達等についても学びます。

授業の実際には、屋外での自然と関わったり、栽培や工作をしたり、季節の行事について調べるなどの体験的な活動を多く取り入れ、保育者自身の感性を高めていながら、保育実践力を培っていきます。また、活動を通して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中の「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、文字等への関心・感覚」について総合的に学んでいきます。

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状取得の必修科目及び保育士資格取得の選択必修科目です。

なお、本授業科目では、課題の指示や確認のためにGoogleClassroomも使用します。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

保育に関わる専門的知識の習得
表現技術と創造力
保育を計画する力

【到達目標】

1. 乳幼児を取り巻く環境の諸側面（物的・人的・社会的等）と、乳幼児の発達におけるそれらの重要性について理解することができる。
2. 乳幼児期の思考・科学的概念の発達を理解することができる。
3. 「環境」の指導で必要となる感性を養うと共に、自然、社会事象などについての多様な知識を身に付けることができる。
4. 要領・指針に示された「環境」領域のねらいを踏まえ、多彩な保育活動を創出する力を培うことができる。

【授業計画】

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | 環境に関わる保育者の役割 |
| 第2回 | 現代社会の子どもを取り巻く環境の諸側面 |
| 第3回 | 乳幼児期にふさわしい生活と課題 |
| 第4回 | 自然との関わりをつくる(1) - 春をみつけよう - (フィールドワーク) |
| 第5回 | 自然との関わりをつくる(2) - 植物を育てよう - (実践) |
| 第6回 | 科学絵本について知見を深める |
| 第7回 | さまざまな環境との出会い - 四季折々の生活 - |
| 第8回 | さまざまな環境との出会い - 春 - (ワークショップ) |
| 第9回 | さまざまな環境との出会い - 夏 - (ワークショップ) |
| 第10回 | さまざまな環境との出会い - 秋 - (ワークショップ) |
| 第11回 | さまざまな環境との出会い - 冬 - (ワークショップ) |
| 第12回 | 自然との関わりをつくる(3) - 野菜の生長と収穫 - (実践) |
| 第13回 | 自然との関わりをつくる(4) - 野菜通信の作成 - |
| 第14回 | 自然との関わりをつくる(5) - 子どもが自然と関わる姿 - |
| 第15回 | 社会生活との関わりをつくる(伝統文化・地域社会等) |
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

- ・授業の最後に課すまとめのレポート提出(8時間)
- ・分担されたワークショップに関する準備や発表練習(5時間)
- ・日常生活の中から、身近な環境に関する情報収集(2時間)

【成績の評価】

授業内容に関する関心・発表の態度(20%)、課題の提出(40%)、まとめのレポート(40%)

課題については、書く視点を示すとともに、参考となる文章を紹介することで、次時の学習に生かす。フィールドワークやワークショップについては、教員から講評を受けることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

文部科学省『幼稚園教育要領 解説』（2018年3月）
かこさとし著『こどもの行事 しぜんと生活』小峰書店（2013年）
かがくのとも傑作集 福音館書店（2019年）

科目名： <CUI241> 子どもと環境【保 B】

担当教員： 佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園・こども園での経験を活かし、環境と関わる子どもの具体的な姿や事例を示しながら授業を行います。

本授業では、領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能を身に付けることをめざします。また、特に領域「環境」の指導の基盤となる、現代の乳幼児を取り巻く環境とその現代的課題、乳幼児と身近な環境との関わりの発達等についても学びます。

授業の実際には、屋外での自然と関わったり、栽培や工作をしたり、季節の行事について調べるなどの体験的な活動を多く取り入れ、保育者自身の感性を高めていながら、保育実践力を培っていきます。また、活動を通して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中の「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、文字等への関心・感覚」について総合的に学んでいきます。

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状取得の必修科目及び保育士資格取得の選択必修科目です。

なお、本授業科目では、課題の指示や確認のためにGoogleClassroomも使用します。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

保育に関わる専門的知識の習得
表現技術と創造力
保育を計画する力

【到達目標】

1. 乳幼児を取り巻く環境の諸側面（物的・人的・社会的等）と、乳幼児の発達におけるそれらの重要性について理解することができる。
2. 乳幼児期の思考・科学的概念の発達を理解することができる。
3. 「環境」の指導で必要となる感性を養うと共に、自然、社会事象などについての多様な知識を身に付けることができる。
4. 要領・指針に示された「環境」領域のねらいを踏まえ、多彩な保育活動を創出する力を培うことができる。

【授業計画】

- | | |
|------|--------------------------------------|
| 第1回 | 環境に関わる保育者の役割 |
| 第2回 | 現代社会の子どもを取り巻く環境の諸側面 |
| 第3回 | 乳幼児期にふさわしい生活と課題 |
| 第4回 | 自然との関わりをつくる（1）- 春をみつけよう - （フィールドワーク） |
| 第5回 | 自然との関わりをつくる（2）- 植物を育てよう - （実践） |
| 第6回 | 科学絵本について知見を深める |
| 第7回 | さまざまな環境との出会い - 四季折々の生活 - |
| 第8回 | さまざまな環境との出会い - 春 - （ワークショップ） |
| 第9回 | さまざまな環境との出会い - 夏 - （ワークショップ） |
| 第10回 | さまざまな環境との出会い - 秋 - （ワークショップ） |
| 第11回 | さまざまな環境との出会い - 冬 - （ワークショップ） |
| 第12回 | 自然との関わりをつくる（3）- 野菜の生長と収穫 - （実践） |
| 第13回 | 自然との関わりをつくる（4）- 野菜通信の作成 - |
| 第14回 | 自然との関わりをつくる（5）- 子どもが自然と関わる姿 - |
| 第15回 | 社会生活との関わりをつくる（伝統文化・地域社会等） |
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

- ・ 授業の最後に課すまとめのレポート提出（8時間）
- ・ 分担されたワークショップに関する準備や発表練習（5時間）
- ・ 日常生活の中から、身近な環境に関する情報収集（2時間）

【成績の評価】

授業内容に関する関心・発表の態度（20%）、課題の提出（40%）、まとめのレポート（40%）

課題については、書く視点を示すとともに、参考となる文章を紹介することで、次時の学習に生かす。フィールドワークやワークショップについては、教員から講評を受けることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

文部科学省『幼稚園教育要領 解説』（2018年3月）
かこさとし著『こどもの行事 しぜんと生活』小峰書店（2013年）
かがくのとも傑作集 福音館書店（2019年）

科目名： <CU1161> 子どもと言葉
担当教員： 森本 将行(MORIMOTO Masayuki)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。担当教員が保育実践の経験を生かし子どもと保育者のコミュニケーション、言葉のやり取り、生活を共にすることで育つ言葉の実践方法を解説します。子どもの言葉が豊かに育つための遊びや教材研究を「想像する・作成する・実際に演じてみる」を実践し保育の技術を身に付ける授業です。また、領域「言葉」の指導の基盤となる、乳幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける授業です。なお、この授業は、幼稚園教諭二種免許状取得の必修科目と保育士資格取得の必修科目です。

本授業科目では、課題の指示や提出、連絡事項などにGoogle classroomを活用します。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

保育に関わる専門的知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

1. 言葉に対する感覚を豊かにする具体的な例を挙げて説明できる。
2. 乳幼児の発達における児童文化財の意義について基礎的な知識を身に付けている。
3. 言葉の楽しさや美しさに気づき、保育活動を創出する基礎技術と保育実践力と、その知識や洞察力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション/人の生涯と「ことば」の関わり
 - 第2回：「あなた」の言葉が「こども」の言葉を育む
 - 第3回：「ことばが育つ」「ことばを育てる」とはどういうことか
 - 第4回：保育現場で活用される児童文化財
 - 第5回：子どもの表現を育てるために 相手あつての表現、対話する世界
 - 第6回：言語コミュニケーション 子どものことばの発達
 - 第7回：言語コミュニケーション 一語文の成立 二語文の獲得から多語文へ
 - 第8回：言語コミュニケーション 会話のための言葉から思考の道具
 - 第9回：児童文化財を用いた保育の実践 「お話」作り
 - 第10回：児童文化財を用いた保育の実践 「お話」作りから実践発表
 - 第11回：児童文化財を用いた保育の実践 「絵本を深読みする」絵本リスト作成
 - 第12回：児童文化財を用いた保育の実践 紙芝居の特徴、演じ方
 - 第13回：児童文化財を用いた保育の実践 軍手人形を製作 「お花がわらった」
 - 第14回：児童文化財を用いた保育の実践 「お花がわらった」製作発表と演じ方
 - 第15回：子どものことばを豊かに育む保育者の役割
- 定期試験

【授業時間外の学習】

1. 毎回、授業で示すキーワード3個を調べてノートにまとめ指定する期間に提出すること。（5時間）
2. お話づくり、手作り人形などの資料集め、材料を工夫し作成をすること。（5時間）
3. 実技発表の練習をすること。（5時間）

【成績の評価】

1. 授業中の態度10%
2. 毎回の学習シートの記入内容10%
3. 提出物10%
4. 定期試験60%など評価をします。
5. ワークショップ・発表の仕方やレポートは、内容・字数・提出日の厳守を評価10%します。
1回目の授業で詳しく説明をします。定期試験の結果については、オフィスアワーの時間に解説します。

【使用テキスト】

古橋和夫編『保育者のための言語表現の技術 子どもと関わる児童文化財をもちいた保育実践』（萌文書林、2018年）

【参考文献】

成田朋子編 『新・保育実践を支える言葉』（福村出版、2018年）

保育所保育指針（厚生労働省、2017年3月告示）

幼稚園教育要領（文部科学省、2017年3月告示）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府、文部科学省、厚生労働省、2017年3月告示）

科目名： <CUI171> 子どもと造形表現 【保 A】

担当教員： 岡谷 崇史(OKATANI Takafumi)

【授業の紹介】

本授業科目は、造形表現に関する授業です。描画材料（水彩絵具、クレパス、マーカー等）の組成、様々な粘土や紙の特性などの子どもの造形表現に関わる専門的知識や思考力を学習しながら、基本的な描法や造形、ハサミやカッターナイフなどの道具の基本的な使い方など技能を学習します。また、子どもの成長や発達段階に応じた教材、カリキュラム、材料、用具、場所や空間などの環境を工夫する力を身につけます。さらに子どもたちならではの造形表現を理解し、正しく援助する力を身につけます。

本授業科目は保育学科の卒業必修科目です。加えて、本授業科目は幼稚園教諭二種免許状、及び保育士資格取得のための必修科目です。

本授業科目では、授業前後の課題や資料等を配信・提出するにあたりGoogle Classroomを使用します。クラスコードは「a2xlcu0」です。

< 卒業認定・学位授与の方針における関連項目 >

4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

< 学修成果における関連項目 >

保育に関わる専門的知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

1. 保育に関する専門的な知識を習得しながら、子どもたちの造形表現活動に結びつけることができる。
2. 造形表現の基礎的な知識と技能を身につけ、素材を活かした表現や、発展させる造形力を身につけることができる。
3. 子どもたちの成長や実態に応じて、題材設定やねらいを明確にもちながら準備やプロセスを計画し、評価することができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、造形表現とは、学習の仕方

>>> Google Classroomへの参加

第2回 立体物製作「きれいなサカナを作ろう」

>>> 「きれいなサカナを作ろう」アイデアを6点練る アイデアが決まったら、色彩計画を立てカラードフォルム紙の色を選択

第3回 立体物製作「きれいなサカナを作ろう」

>>> 参考作品紹介 型紙をカラードフォルム紙に転写

第4回 立体物製作「きれいなサカナを作ろう」

>>> 転写した形（パーツ）をカッターナイフやハサミで丁寧に切る

第5回 立体物製作「きれいなサカナを作ろう」

>>> それぞれのパーツを、ボンドで接着しながら組み立てる

第6回 立体物製作「きれいなサカナを作ろう」

>>> カラードフォルムやトータルカラーなどで、頭部やウロコ、ヒレなど製作

第7回 立体物製作「きれいなサカナを作ろう」

>>> カラードフォルムやトータルカラーなどで、頭部やウロコ、ヒレなど製作 作品講評会

第8回 紙粘土による造形表現

>>> 紙粘土で、「遊んでいる子ども」を製作

第9回 紙粘土による造形表現

>>> アクリル絵具で着彩 作品講評会

第10回 指導案作成について

>>> 3才児を対象とした造形表現の内容を設定し、ねらいや環境、準備物、進行計画等を策定する

第11回 大学祭ポスター製作

>>> 設定されたテーマに沿って、アイデアを6点以上練る

第12回 大学祭ポスター製作

>>> アイデアが決まったら、イラストボードに下描きする 色彩計画を立てる

第13回 大学祭ポスター製作

>>> アクリル絵具で着彩 隣同士の色調だけでなく、全体を見る目を養う

第14回 大学祭ポスター製作

>>> アクリル絵具の具で着彩 画面全体の色調に留意しながら、彩色する

第15回 大学祭ポスター製作

>>> アクリル絵具の具で着彩 塗り残しがないように細部までアクリル絵具の具で彩色する 作品講評会
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

美術館や博物館などに出かけ美術作品を鑑賞したり、画集を見たりして美的感受性を養う。（毎時 1 時間）

【成績の評価】

課題作品及びその提出状況80%、受講態度などを20%で評価する。作品が完成するたびに講評会を設け、作品の全体的な傾向や作品個々の良い点をあげることによってフィードバックする。

【使用テキスト】

樋口一成 編著『幼児造形の基礎 ―乳幼児の造形表現と造形教材―』（萌文書林 2018年）ISBN 978-4-89347-311-0

保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省）

【参考文献】

随時紹介する。

科目名： <CUI171> 子どもと造形表現 【保 B】

担当教員： 岡谷 崇史(OKATANI Takafumi)

【授業の紹介】

本授業科目は、造形表現に関する授業です。描画材料（水彩絵具、クレパス、マーカー等）の組成、様々な粘土や紙の特性などの子どもの造形表現に関わる専門的知識や思考力を学習しながら、基本的な描法や造形、ハサミやカッターナイフなどの道具の基本的な使い方など技能を学習します。また、子どもの成長や発達段階に応じた教材、カリキュラム、材料、用具、場所や空間などの環境を工夫する力を身につけます。さらに子どもたちならではの造形表現を理解し、正しく援助する力を身につけます。

本授業科目は保育学科の卒業必修科目です。加えて、本授業科目は幼稚園教諭二種免許状、及び保育士資格取得のための必修科目です。

本授業科目では、授業前後の課題や資料等を配信・提出するにあたりGoogle Classroomを使用します。クラスコードは「a2xlcuo」です。

< 卒業認定・学位授与の方針における関連項目 >

4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

< 学修成果における関連項目 >

保育に関わる専門的知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

1. 保育に関する専門的な知識を習得しながら、子どもたちの造形表現活動に結びつけることができる。
2. 造形表現の基礎的な知識と技能を身につけ、素材を活かした表現や、発展させる造形力を身につけることができる。
3. 子どもたちの成長や実態に応じて、題材設定やねらいを明確にもちながら準備やプロセスを計画し、評価することができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、造形表現とは、学習の仕方

>>> Google Classroomへの参加

第2回 立体物製作「きれいなサカナを作ろう」

>>> 「きれいなサカナを作ろう」アイデアを6点練る アイデアが決まったら、色彩計画を立てカラードフォルム紙の色を選択

第3回 立体物製作「きれいなサカナを作ろう」

>>> 参考作品紹介 型紙をカラードフォルム紙に転写

第4回 立体物製作「きれいなサカナを作ろう」

>>> 転写した形（パーツ）をカッターナイフやハサミで丁寧に切る

第5回 立体物製作「きれいなサカナを作ろう」

>>> それぞれのパーツを、ボンドで接着しながら組み立てる

第6回 立体物製作「きれいなサカナを作ろう」

>>> カラードフォルムやトータルカラーなどで、頭部やウロコ、ヒレなど製作

第7回 立体物製作「きれいなサカナを作ろう」

>>> カラードフォルムやトータルカラーなどで、頭部やウロコ、ヒレなど製作 作品講評会

第8回 紙粘土による造形表現

>>> 紙粘土で、「遊んでいる子ども」を製作

第9回 紙粘土による造形表現

>>> アクリル絵の具で着彩 作品講評会

第10回 指導案作成について

>>> 3才児を対象とした造形表現の内容を設定し、ねらいや環境、準備物、進行計画等を策定する

第11回 大学祭ポスター製作

>>> 設定されたテーマに沿って、アイデアを6点以上練る

第12回 大学祭ポスター製作

>>> アイデアが決まったら、ケント紙に下描きする 色彩計画を立てる

第13回 大学祭ポスター製作

>>> アクリル絵の具で着彩 隣同士の色調だけでなく、全体を見る目を養う

第14回 大学祭ポスター製作

>>> アクリル絵の具で着彩 画面全体の色調に留意しながら、彩色する

第15回 大学祭ポスター製作

>>> アクリル絵の具で着彩 塗り残しがないように細部までアクリル絵の具で彩色する 作品講評会
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

美術館や博物館などに出かけ美術作品を鑑賞したり、画集を見たりして美的感受性を養う。（毎時 1 時間）

【成績の評価】

課題作品及びその提出状況80%、受講態度などを20%で評価する。作品が完成するたびに講評会を設け、作品の全体的な傾向や作品個々の良い点をあげることによってフィードバックする。

【使用テキスト】

樋口一成 編著『幼児造形の基礎 ―乳幼児の造形表現と造形教材―』（萌文書林 2018年）ISBN 978-4-89347-311-0

保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省）

【参考文献】

随時紹介する。

科目名： <CUI173> 子どもと造形表現 【保 A】

担当教員： 辻野 栄一(TSUJINO Eiichi)

【授業の紹介】

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、保育士資格取得の選択必修科目です。保育者としての資質能力の一つである子どもの造形表現に関わる専門的知識と思考力・技能を習得します。そして表現力や立体感覚を身につけることを主としています。

なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通して行います。クラスコードは、q3qu674です。

卒業認定・学位授与の方針における関連項目

4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

学習成果における関連項目

保育に関わる専門的知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

- 1．造形表現の発展的な知識と技能を身につけることができる。
- 2．素材や画材の特性を知り、色彩感覚や立体感覚を身につけることができる。
- 3．独創的で工夫した技術や表現などを発展させることができる。
- 4．造形教材の準備や子どもが表現するプロセスを理解し、造形教育を計画することができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション 授業の内容と進め方の説明
第2回 クレヨンを使った抽象表現
第3回 染紙 和紙・インクを使った染紙
第4回 ドリームキャッチャー ドリームキャッチャーの土台製作
第5回 ドリームキャッチャー 紙、毛糸などを使った装飾
第6回 かぶりもの製作 基本形の組み立て
第7回 かぶりもの製作 加工
第8回 かぶりもの製作 仕上げ
第9回 折り紙1 カブトムシ、プチトマト、キリン
第10回 折り紙2 リス、てぶくろ、かみとんぼ、折り紙小テスト
第11回 紙粘土工作 紙粘土による成形
第12回 紙粘土工作 着彩仕上げ
第13回 四コマ漫画 起承転結を用いたストーリーのアイデア展開
第14回 四コマ漫画 ペンによる描画
第15回 四コマ漫画 発表
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

前もって出された課題に対して、資料収集やアイデアスケッチなどをして、指定された日に提出できるように常に製作準備を整えておくようにしてください。（1時間）

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（70%）、折り紙小テスト（10%）、授業態度・意欲・準備物（20%）で評価します。課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

山口真 著『決定版 日本のおりがみ12か月』（ナツメ社）

【参考文献】

奥 美佐子 著『3・4・5歳児の造形あそび』（ひかりのくに）

村田 祐紀、内本 久美 著『2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ』（ひかりのくに）

保育所保育指針（厚生労働省、2017年3月告示）

幼稚園教育要領（文部科学省、2017年3月告示）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示）

科目名： <CUI173> 子どもと造形表現 【保 B】

担当教員： 辻野 栄一(TSUJINO Eiichi)

【授業の紹介】

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、保育士資格取得の選択必修科目です。保育者としての資質能力の一つである子どもの造形表現に関わる専門的知識と思考力・技能を習得します。そして表現力や立体感覚を身につけることを主としています。

なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通して行います。クラスコードは、q3qu674です。

卒業認定・学位授与の方針における関連項目

4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

学習成果における関連項目

保育に関わる専門的知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

- 1．造形表現の発展的な知識と技能を身につけることができる。
- 2．素材や画材の特性を知り、色彩感覚や立体感覚を身につけることができる。
- 3．独創的で工夫した技術や表現などを発展させることができる。
- 4．造形教材の準備や子どもが表現するプロセスを理解し、造形教育を計画することができる。

【授業計画】

- | | | |
|------|------------|-----------------------|
| 第1回 | オリエンテーション | 授業の内容と進め方の説明 |
| 第2回 | クレヨンを使った | 抽象表現 |
| 第3回 | 染紙 | 和紙・インクを使った染紙 |
| 第4回 | ドリームキャッチャー | ドリームキャッチャーの土台製作 |
| 第5回 | ドリームキャッチャー | 紙、毛糸などを使った装飾 |
| 第6回 | かぶりもの製作 | 基本形の組み立て |
| 第7回 | かぶりもの製作 | 加工 |
| 第8回 | かぶりもの製作 | 仕上げ |
| 第9回 | 折り紙1 | カブトムシ、プチトマト、キリン |
| 第10回 | 折り紙2 | リス、てぶくろ、かみとんぼ、折り紙小テスト |
| 第11回 | 紙粘土工作 | 紙粘土による成形 |
| 第12回 | 紙粘土工作 | 着彩仕上げ |
| 第13回 | 四コマ漫画 | 起承転結を用いたストーリーのアイデア展開 |
| 第14回 | 四コマ漫画 | ペンによる描画 |
| 第15回 | 四コマ漫画 | 発表 |
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

前もって出された課題に対して、資料収集やアイデアスケッチなどをして、指定された日に提出できるように常に製作準備を整えておくようにしてください。（1時間）

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（70%）、折り紙小テスト（10%）、授業態度・意欲・準備物（20%）で評価します。課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

山口真 著『決定版 日本のおりがみ12か月』（ナツメ社）

【参考文献】

奥 美佐子 著『3・4・5歳児の造形あそび』（ひかりのくに）

村田 祐紀、内本 久美 著『2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ』（ひかりのくに）

保育所保育指針（厚生労働省、2017年3月告示）

幼稚園教育要領（文部科学省、2017年3月告示）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示）

科目名： <CUI181> 子どもと音楽表現 【保A】

担当教員： 柴田 玲子(SHIBATA Reiko)

【授業の紹介】

子どもの発達に音楽が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育所、幼稚園、認定こども園において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育所、幼稚園、認定こども園で日常的に用いられている音楽の演奏や季節の歌などの弾き歌いに重点を置いてレパートリーを増やすとともに、さまざまな教材を用いて音楽表現の基本的知識・技術を習得し、感性を豊かにすることをめざします。本授業科目は保育学科の卒業必修科目です。また幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目でもあります。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはxadw3n3です。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

保育に関わる専門知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

1. 音楽表現の専門的知識と技術の基礎を身につけることができる。
2. 実際に演奏することで表現することの楽しさを実感することができる。
3. 他者の音楽表現を聴くことで、イメージを豊かにすることができる。
4. 音楽表現の基礎技能を基盤とした保育実践力と創造力を身につけることができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション及び個々のレベルに応じた演奏曲目の決定。領域「表現」とは。

第2回：春の歌を歌おう（伴奏の演奏法を理解し、習得する）。

第3回：動物の歌を歌おう（伴奏を弾きながら歌う）。

第4回：動物の歌を歌おう（表現力を高める）。

第5回：生活の歌を歌おう（歌詞の意図を考える）。

第6回：中間発表会（1）1～2曲を発表し、人前での弾き歌いを経験し、担当教員から講評を受ける。

第7回：生活の歌を歌おう（歌詞と伴奏の関係を考える）。

第8回：生活の歌を歌おう（歌詞と伴奏の調和をめざす）。

第9回：子どもの好きな歌（子どもを意識した弾き歌いをめざす）。

第10回：中間発表会（2）1～2曲を発表し、人前での演奏において歌と伴奏の調和の達成をめざす。担当教員から講評を受ける

第11回：子どもの好きな歌（伴奏の役割を考える）。

第12回：子どもの好きな歌（伴奏の役割に応じた演奏法（テンポや強弱など）を研究する）。

第13回：夏の歌を歌おう（歌と伴奏の適切なバランスを習得する）。

第14回：夏の歌を歌おう（歌と伴奏が一体となった表現をめざす）。

第15回：まとめの発表会。人前で表現力のある弾き歌いをめざす。担当教員から講評を受ける。

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ピアノや歌唱の技術・表現力の向上には日々の練習が欠かせません。毎日60分以上は練習し、授業で教員から指導、指摘された課題を次回授業までに克服しましょう。練習の際に気づいたことは、授業で指導、指摘された内容と併せてノートや楽譜に書き留めておき、自身の技術や表現力向上の目標とすることも重要です。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会（90％）、日常の取り組み（10％）で評価します。

発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」（小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年）。

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜（担当教員よりその都度指示する）

保育所保育指針（厚生労働省、2017年3月告示）

幼稚園教育要領（文部科学省、2017年3月告示）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府、文部科学省、厚生労働省、2017年3月告示）

科目名： <CUI181> 子どもと音楽表現 【保 A】

担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

子どもの発達に音楽が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育所、幼稚園、認定こども園において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育所、幼稚園、認定こども園で日常的に用いられている音楽の演奏や季節の歌などの弾き歌いに重点を置いてレパートリーを増やすとともに、さまざまな教材を用いて音楽表現の基本的知識・技術を習得し、感性を豊かにすることをめざします。本授業科目は保育学科の卒業必修科目です。また幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目でもあります。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはxadw3n3です。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

保育に関わる専門知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

- 1．音楽表現の専門的知識と技術の基礎を身につけることができる。
- 2．実際に演奏することで表現することの楽しさを実感することができる。
- 3．他者の音楽表現を聴くことで、イメージを豊かにすることができる。
- 4．音楽表現の基礎技能を基盤とした保育実践力と創造力を身につけることができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション及び個々のレベルに応じた演奏曲目の決定。領域「表現」とは。

第2回：春の歌を歌おう（伴奏の演奏法を理解し、習得する）。

第3回：動物の歌を歌おう（伴奏を弾きながら歌う）。

第4回：動物の歌を歌おう（表現力を高める）。

第5回：生活の歌を歌おう（歌詞の意図を考える）。

第6回：中間発表会（1）1～2曲を発表し、人前での弾き歌いを経験し、担当教員から講評を受ける。

第7回：生活の歌を歌おう（歌詞と伴奏の関係を考える）。

第8回：生活の歌を歌おう（歌詞と伴奏の調和をめざす）。

第9回：子どもの好きな歌（子どもを意識した弾き歌いをめざす）。

第10回：中間発表会（2）1～2曲を発表し、人前での演奏において歌と伴奏の調和の達成をめざす。担当教員から講評を受ける

第11回：子どもの好きな歌（伴奏の役割を考える）。

第12回：子どもの好きな歌（伴奏の役割に応じた演奏法（テンポや強弱など）を研究する）。

第13回：夏の歌を歌おう（歌と伴奏の適切なバランスを習得する）。

第14回：夏の歌を歌おう（歌と伴奏が一体となった表現をめざす）。

第15回：まとめの発表会。人前で表現力のある弾き歌いをめざす。担当教員から講評を受ける。

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ピアノや歌唱の技術・表現力の向上には日々の練習が欠かせません。毎日60分以上は練習し、授業で教員から指導、指摘された課題を次回授業までに克服しましょう。練習の際に気づいたことは、授業で指導、指摘された内容と併せてノートや楽譜に書き留めておき、自身の技術や表現力向上の目標とすることも重要です。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会（90％）、日常の取り組み（10％）で評価します。

発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」（小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年）。

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜（担当教員よりその都度指示する）

保育所保育指針（厚生労働省、2017年3月告示）

幼稚園教育要領（文部科学省、2017年3月告示）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府、文部科学省、厚生労働省、2017年3月告示）

科目名： <CUI181> 子どもと音楽表現 【保A】

担当教員： 渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】

子どもの発達に音楽が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育所、幼稚園、認定こども園において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育所、幼稚園、認定こども園で日常的に用いられている音楽の演奏や季節の歌などの弾き歌いに重点を置いてレパートリーを増やすとともに、さまざまな教材を用いて音楽表現の基本的知識・技術を習得し、感性を豊かにすることをめざします。本授業科目は保育学科の卒業必修科目です。また幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目でもあります。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはxadw3n3です。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

保育に関わる専門知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

1. 音楽表現の専門的知識と技術の基礎を身につけることができる。
2. 実際に演奏することで表現することの楽しさを実感することができる。
3. 他者の音楽表現を聴くことで、イメージを豊かにすることができる。
4. 音楽表現の基礎技能を基盤とした保育実践力と創造力を身につけることができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション及び個々のレベルに応じた演奏曲目の決定。領域「表現」とは。

第2回：春の歌を歌おう（伴奏の演奏法を理解し、習得する）。

第3回：動物の歌を歌おう（伴奏を弾きながら歌う）。

第4回：動物の歌を歌おう（表現力を高める）。

第5回：生活の歌を歌おう（歌詞の意図を考える）。

第6回：中間発表会（1）1～2曲を発表し、人前での弾き歌いを経験し、担当教員から講評を受ける。

第7回：生活の歌を歌おう（歌詞と伴奏の関係を考える）。

第8回：生活の歌を歌おう（歌詞と伴奏の調和をめざす）。

第9回：子どもの好きな歌（子どもを意識した弾き歌いをめざす）。

第10回：中間発表会（2）1～2曲を発表し、人前での演奏において歌と伴奏の調和の達成をめざす。担当教員から講評を受ける

第11回：子どもの好きな歌（伴奏の役割を考える）。

第12回：子どもの好きな歌（伴奏の役割に応じた演奏法（テンポや強弱など）を研究する）。

第13回：夏の歌を歌おう（歌と伴奏の適切なバランスを習得する）。

第14回：夏の歌を歌おう（歌と伴奏が一体となった表現をめざす）。

第15回：まとめの発表会。人前で表現力のある弾き歌いをめざす。担当教員から講評を受ける。

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ピアノや歌唱の技術・表現力の向上には日々の練習が欠かせません。毎日60分以上は練習し、授業で教員から指導、指摘された課題を次回授業までに克服しましょう。練習の際に気づいたことは、授業で指導、指摘された内容と併せてノートや楽譜に書き留めておき、自身の技術や表現力向上の目標とすることも重要です。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会（90%）、日常の取り組み（10%）で評価します。

発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」（小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年）。

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜（担当教員よりその都度指示する）

保育所保育指針（厚生労働省、2017年3月告示）

幼稚園教育要領（文部科学省、2017年3月告示）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府、文部科学省、厚生労働省、2017年3月告示）

科目名： <CUI181> 子どもと音楽表現 【保 A】

担当教員： 出木浦 孝(DEKIURA Takashi)

【授業の紹介】

子どもの発達に音楽が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育所、幼稚園、認定こども園において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育所、幼稚園、認定こども園で日常的に用いられている音楽の演奏や季節の歌などの弾き歌いに重点を置いてレパートリーを増やすとともに、さまざまな教材を用いて音楽表現の基本的知識・技術を習得し、感性を豊かにすることをめざします。本授業科目は保育学科の卒業必修科目です。また幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目でもあります。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはxadw3n3です。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

保育に関わる専門知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

1. 音楽表現の専門的知識と技術の基礎を身につけることができる。
2. 実際に演奏することで表現することの楽しさを実感することができる。
3. 他者の音楽表現を聴くことで、イメージを豊かにすることができる。
4. 音楽表現の基礎技能を基盤とした保育実践力と創造力を身につけることができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション及び個々のレベルに応じた演奏曲目の決定。領域「表現」とは。

第2回：春の歌を歌おう（伴奏の演奏法を理解し、習得する）。

第3回：動物の歌を歌おう（伴奏を弾きながら歌う）。

第4回：動物の歌を歌おう（表現力を高める）。

第5回：生活の歌を歌おう（歌詞の意図を考える）。

第6回：中間発表会（1）1～2曲を発表し、人前での弾き歌いを経験し、担当教員から講評を受ける。

第7回：生活の歌を歌おう（歌詞と伴奏の関係を考える）。

第8回：生活の歌を歌おう（歌詞と伴奏の調和をめざす）。

第9回：子どもの好きな歌（子どもを意識した弾き歌いをめざす）。

第10回：中間発表会（2）1～2曲を発表し、人前での演奏において歌と伴奏の調和の達成をめざす。担当教員から講評を受ける

第11回：子どもの好きな歌（伴奏の役割を考える）。

第12回：子どもの好きな歌（伴奏の役割に応じた演奏法（テンポや強弱など）を研究する）。

第13回：夏の歌を歌おう（歌と伴奏の適切なバランスを習得する）。

第14回：夏の歌を歌おう（歌と伴奏が一体となった表現をめざす）。

第15回：まとめの発表会。人前で表現力のある弾き歌いをめざす。担当教員から講評を受ける。

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ピアノや歌唱の技術・表現力の向上には日々の練習が欠かせません。毎日60分以上は練習し、授業で教員から指導、指摘された課題を次回授業までに克服しましょう。練習の際に気づいたことは、授業で指導、指摘された内容と併せてノートや楽譜に書き留めておき、自身の技術や表現力向上の目標とすることも重要です。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会（90％）、日常の取り組み（10％）で評価します。

発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」（小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年）。

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜（担当教員よりその都度指示する）

保育所保育指針（厚生労働省、2017年3月告示）

幼稚園教育要領（文部科学省、2017年3月告示）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府、文部科学省、厚生労働省、2017年3月告示）

科目名： <CU181> 子どもと音楽表現 【保 B】

担当教員： 出木浦 孝(DEKIURA Takashi)

【授業の紹介】

子どもの発達に音楽が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育所、幼稚園、認定こども園において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育所、幼稚園、認定こども園で日常的に用いられている音楽の演奏や季節の歌などの弾き歌いに重点を置いてレパートリーを増やすとともに、さまざまな教材を用いて音楽表現の基本的知識・技術を習得し、感性を豊かにすることをめざします。本授業科目は保育学科の卒業必修科目です。また幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目でもあります。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはxadw3n3です。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

保育に関わる専門知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

- 1．音楽表現の専門的知識と技術の基礎を身につけることができる。
- 2．実際に演奏することで表現することの楽しさを実感することができる。
- 3．他者の音楽表現を聴くことで、イメージを豊かにすることができる。
- 4．音楽表現の基礎技能を基盤とした保育実践力と創造力を身につけることができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション及び個々のレベルに応じた演奏曲目の決定。領域「表現」とは。

第2回：春の歌を歌おう（伴奏の演奏法を理解し、習得する）。

第3回：動物の歌を歌おう（伴奏を弾きながら歌う）。

第4回：動物の歌を歌おう（表現力を高める）。

第5回：生活の歌を歌おう（歌詞の意図を考える）。

第6回：中間発表会（1）1～2曲を発表し、人前での弾き歌いを経験し、担当教員から講評を受ける。

第7回：生活の歌を歌おう（歌詞と伴奏の関係を考える）。

第8回：生活の歌を歌おう（歌詞と伴奏の調和をめざす）。

第9回：子どもの好きな歌（子どもを意識した弾き歌いをめざす）。

第10回：中間発表会（2）1～2曲を発表し、人前での演奏において歌と伴奏の調和の達成をめざす。担当教員から講評を受ける

第11回：子どもの好きな歌（伴奏の役割を考える）。

第12回：子どもの好きな歌（伴奏の役割に応じた演奏法（テンポや強弱など）を研究する）。

第13回：夏の歌を歌おう（歌と伴奏の適切なバランスを習得する）。

第14回：夏の歌を歌おう（歌と伴奏が一体となった表現をめざす）。

第15回：まとめの発表会。人前で表現力のある弾き歌いをめざす。担当教員から講評を受ける。

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ピアノや歌唱の技術・表現力の向上には日々の練習が欠かせません。毎日60分以上は練習し、授業で教員から指導、指摘された課題を次回授業までに克服しましょう。練習の際に気づいたことは、授業で指導、指摘された内容と併せてノートや楽譜に書き留めておき、自身の技術や表現力向上の目標とすることも重要です。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会（90％）、日常の取り組み（10％）で評価します。

発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」（小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年）。

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜（担当教員よりその都度指示する）

保育所保育指針（厚生労働省、2017年3月告示）

幼稚園教育要領（文部科学省、2017年3月告示）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府、文部科学省、厚生労働省、2017年3月告示）

科目名： <CU181> 子どもと音楽表現 【保 B】

担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

子どもの発達に音楽が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育所、幼稚園、認定こども園において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育所、幼稚園、認定こども園で日常的に用いられている音楽の演奏や季節の歌などの弾き歌いに重点を置いてレパートリーを増やすとともに、さまざまな教材を用いて音楽表現の基本的知識・技術を習得し、感性を豊かにすることをめざします。本授業科目は保育学科の卒業必修科目です。また幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目でもあります。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはxadw3n3です。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

保育に関わる専門知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

1. 音楽表現の専門的知識と技術の基礎を身につけることができる。
2. 実際に演奏することで表現することの楽しさを実感することができる。
3. 他者の音楽表現を聴くことで、イメージを豊かにすることができる。
4. 音楽表現の基礎技能を基盤とした保育実践力と創造力を身につけることができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション及び個々のレベルに応じた演奏曲目の決定。領域「表現」とは。

第2回：春の歌を歌おう（伴奏の演奏法を理解し、習得する）。

第3回：動物の歌を歌おう（伴奏を弾きながら歌う）。

第4回：動物の歌を歌おう（表現力を高める）。

第5回：生活の歌を歌おう（歌詞の意図を考える）。

第6回：中間発表会（1）1～2曲を発表し、人前での弾き歌いを経験し、担当教員から講評を受ける。

第7回：生活の歌を歌おう（歌詞と伴奏の関係を考える）。

第8回：生活の歌を歌おう（歌詞と伴奏の調和をめざす）。

第9回：子どもの好きな歌（子どもを意識した弾き歌いをめざす）。

第10回：中間発表会（2）1～2曲を発表し、人前での演奏において歌と伴奏の調和の達成をめざす。担当教員から講評を受ける

第11回：子どもの好きな歌（伴奏の役割を考える）。

第12回：子どもの好きな歌（伴奏の役割に応じた演奏法（テンポや強弱など）を研究する）。

第13回：夏の歌を歌おう（歌と伴奏の適切なバランスを習得する）。

第14回：夏の歌を歌おう（歌と伴奏が一体となった表現をめざす）。

第15回：まとめの発表会。人前で表現力のある弾き歌いをめざす。担当教員から講評を受ける。

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ピアノや歌唱の技術・表現力の向上には日々の練習が欠かせません。毎日60分以上は練習し、授業で教員から指導、指摘された課題を次回授業までに克服しましょう。練習の際に気づいたことは、授業で指導、指摘された内容と併せてノートや楽譜に書き留めておき、自身の技術や表現力向上の目標とすることも重要です。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会（90％）、日常の取り組み（10％）で評価します。

発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」（小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年）。

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜（担当教員よりその都度指示する）

保育所保育指針（厚生労働省、2017年3月告示）

幼稚園教育要領（文部科学省、2017年3月告示）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府、文部科学省、厚生労働省、2017年3月告示）

科目名： <CUI181> 子どもと音楽表現 【保 B】

担当教員： 渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】

子どもの発達に音楽が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育所、幼稚園、認定こども園において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育所、幼稚園、認定こども園で日常的に用いられている音楽の演奏や季節の歌などの弾き歌いに重点を置いてレパートリーを増やすとともに、さまざまな教材を用いて音楽表現の基本的知識・技術を習得し、感性を豊かにすることをめざします。本授業科目は保育学科の卒業必修科目です。また幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目でもあります。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはxadw3n3です。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

保育に関わる専門知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

1. 音楽表現の専門的知識と技術の基礎を身につけることができる。
2. 実際に演奏することで表現することの楽しさを実感することができる。
3. 他者の音楽表現を聴くことで、イメージを豊かにすることができる。
4. 音楽表現の基礎技能を基盤とした保育実践力と創造力を身につけることができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション及び個々のレベルに応じた演奏曲目の決定。領域「表現」とは。

第2回：春の歌を歌おう（伴奏の演奏法を理解し、習得する）。

第3回：動物の歌を歌おう（伴奏を弾きながら歌う）。

第4回：動物の歌を歌おう（表現力を高める）。

第5回：生活の歌を歌おう（歌詞の意図を考える）。

第6回：中間発表会（1）1～2曲を発表し、人前での弾き歌いを経験し、担当教員から講評を受ける。

第7回：生活の歌を歌おう（歌詞と伴奏の関係を考える）。

第8回：生活の歌を歌おう（歌詞と伴奏の調和をめざす）。

第9回：子どもの好きな歌（子どもを意識した弾き歌いをめざす）。

第10回：中間発表会（2）1～2曲を発表し、人前での演奏において歌と伴奏の調和の達成をめざす。担当教員から講評を受ける

第11回：子どもの好きな歌（伴奏の役割を考える）。

第12回：子どもの好きな歌（伴奏の役割に応じた演奏法（テンポや強弱など）を研究する）。

第13回：夏の歌を歌おう（歌と伴奏の適切なバランスを習得する）。

第14回：夏の歌を歌おう（歌と伴奏が一体となった表現をめざす）。

第15回：まとめの発表会。人前で表現力のある弾き歌いをめざす。担当教員から講評を受ける。

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ピアノや歌唱の技術・表現力の向上には日々の練習が欠かせません。毎日60分以上は練習し、授業で教員から指導、指摘された課題を次回授業までに克服しましょう。練習の際に気づいたことは、授業で指導、指摘された内容と併せてノートや楽譜に書き留めておき、自身の技術や表現力向上の目標とすることも重要です。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会（90％）、日常の取り組み（10％）で評価します。

発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」（小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年）。

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜（担当教員よりその都度指示する）

保育所保育指針（厚生労働省、2017年3月告示）

幼稚園教育要領（文部科学省、2017年3月告示）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府、文部科学省、厚生労働省、2017年3月告示）

科目名： <CUI181> 子どもと音楽表現 【保 B】

担当教員： 柴田 玲子(SHIBATA Reiko)

【授業の紹介】

子どもの発達に音楽が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育所、幼稚園、認定こども園において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育所、幼稚園、認定こども園で日常的に用いられている音楽の演奏や季節の歌などの弾き歌いに重点を置いてレパートリーを増やすとともに、さまざまな教材を用いて音楽表現の基本的知識・技術を習得し、感性を豊かにすることをめざします。本授業科目は保育学科の卒業必修科目です。また幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目でもあります。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはxadw3n3です。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

保育に関わる専門知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

- 1．音楽表現の専門的知識と技術の基礎を身につけることができる。
- 2．実際に演奏することで表現することの楽しさを実感することができる。
- 3．他者の音楽表現を聴くことで、イメージを豊かにすることができる。
- 4．音楽表現の基礎技能を基盤とした保育実践力と創造力を身につけることができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション及び個々のレベルに応じた演奏曲目の決定。領域「表現」とは。

第2回：春の歌を歌おう（伴奏の演奏法を理解し、習得する）。

第3回：動物の歌を歌おう（伴奏を弾きながら歌う）。

第4回：動物の歌を歌おう（表現力を高める）。

第5回：生活の歌を歌おう（歌詞の意図を考える）。

第6回：中間発表会（1）1～2曲を発表し、人前での弾き歌いを経験し、担当教員から講評を受ける。

第7回：生活の歌を歌おう（歌詞と伴奏の関係を考える）。

第8回：生活の歌を歌おう（歌詞と伴奏の調和をめざす）。

第9回：子どもの好きな歌（子どもを意識した弾き歌いをめざす）。

第10回：中間発表会（2）1～2曲を発表し、人前での演奏において歌と伴奏の調和の達成をめざす。担当教員から講評を受ける

第11回：子どもの好きな歌（伴奏の役割を考える）。

第12回：子どもの好きな歌（伴奏の役割に応じた演奏法（テンポや強弱など）を研究する）。

第13回：夏の歌を歌おう（歌と伴奏の適切なバランスを習得する）。

第14回：夏の歌を歌おう（歌と伴奏が一体となった表現をめざす）。

第15回：まとめの発表会。人前で表現力のある弾き歌いをめざす。担当教員から講評を受ける。

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ピアノや歌唱の技術・表現力の向上には日々の練習が欠かせません。毎日60分以上は練習し、授業で教員から指導、指摘された課題を次回授業までに克服しましょう。練習の際に気づいたことは、授業で指導、指摘された内容と併せてノートや楽譜に書き留めておき、自身の技術や表現力向上の目標とすることも重要です。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会（90％）、日常の取り組み（10％）で評価します。

発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」（小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年）。

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜（担当教員よりその都度指示する）

保育所保育指針（厚生労働省、2017年3月告示）

幼稚園教育要領（文部科学省、2017年3月告示）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府、文部科学省、厚生労働省、2017年3月告示）

科目名： <CUI182> 子どもと音楽表現 【保 A】

担当教員： 柴田 玲子(SHIBATA Reiko)

【授業の紹介】

子どもと音楽表現 で修得した音楽表現の基礎的な知識を深めるとともに、レパートリーを増やし、音楽表現技術のさらなる向上をめざします。また、他の学生の演奏を聴いたり一緒に歌ったりすること、そして模擬的な歌唱指導に取り組みます。

本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、及び保育士資格取得のための選択必修科目です。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはxadw3n3です。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

保育に関わる専門知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

- 1．音楽表現の指導法に関する理論的基盤を習得することができる。
- 2．さまざまな表現を体験することによって、表現技術の多様性に気づくことができる。
- 3．協働して表現することによって、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
- 4．保育実践力をさらに高めることができる。
- 5．教材研究により音楽の役割を理解することができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション。「子どもと音楽表現」における課題を各自で振り返り、本授業でめざすことを明確化した上で、取り組む楽曲を決定する。

第2回：秋の歌を歌おう。

第3回：季節感のある歌。

第4回：伴奏の形に注目しよう。

第5回：人前で弾き歌いをする練習。

第6回：夏休みの成果を振り返る中間発表会。他者の表現を受け止め、共感する。

第7回：実習に向けて 子ども相手の弾き歌いを行い、子どもの表現活動に展開させる。

第8回：実習に向けて 子どもの生活、季節。

第9回：冬の歌を歌おう。

第10回：コードネームの基礎。

第11回：第7回～第10回の成果を振り返る中間発表会。他者の表現を自分の表現に生かす。

第12回：第11回を振り返り、自身の表現につなげる。

第13回：人前で表情豊かに歌う練習

第14回：さまざまな表現の基礎的な知識技能を生かした発表会

第15回：全体の振り返りとまとめの発表会。表現の多様さを受け入れる。

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「子どもと音楽表現」で身につけた「毎日のコンスタントな練習」（60分）を続行し、音楽表現技術のさらなる向上に努めること。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会（90％）、日常の取り組み（10％）で評価する。

発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックする。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」（小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年）

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜（担当教員よりその都度指示する）

保育所保育指針（厚生労働省、2017年3月告示）

幼稚園教育要領（文部科学省、2017年3月告示）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示）

科目名： <CUI182> 子どもと音楽表現 【保 A】

担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

子どもと音楽表現 で修得した音楽表現の基礎的な知識を深めるとともに、レパートリーを増やし、音楽表現技術のさらなる向上をめざします。また、他の学生の演奏を聴いたり一緒に歌ったりすること、そして模擬的な歌唱指導に取り組みます。

本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、及び保育士資格取得のための選択必修科目です。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはxadw3n3です。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

保育に関わる専門知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

- 1．音楽表現の指導法に関する理論的基盤を習得することができる。
- 2．さまざまな表現を体験することによって、表現技術の多様性に気づくことができる。
- 3．協働して表現することによって、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
- 4．保育実践力をさらに高めることができる。
- 5．教材研究により音楽の役割を理解することができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション。「子どもと音楽表現」における課題を各自で振り返り、本授業でめざすことを明確化した上で、取り組む楽曲を決定する。

第2回：秋の歌を歌おう。

第3回：季節感のある歌。

第4回：伴奏の形に注目しよう。

第5回：人前で弾き歌いをする練習。

第6回：夏休みの成果を振り返る中間発表会。他者の表現を受け止め、共感する。

第7回：実習に向けて 子ども相手の弾き歌いを行い、子どもの表現活動に展開させる。

第8回：実習に向けて 子どもの生活、季節。

第9回：冬の歌を歌おう。

第10回：コードネームの基礎。

第11回：第7回～第10回の成果を振り返る中間発表会。他者の表現を自分の表現に生かす。

第12回：第11回を振り返り、自身の表現につなげる。

第13回：人前で表情豊かに歌う練習

第14回：さまざまな表現の基礎的な知識技能を生かした発表会

第15回：全体の振り返りとまとめの発表会。表現の多様さを受け入れる。

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「子どもと音楽表現」で身につけた「毎日のコンスタントな練習」（60分）を続行し、音楽表現技術のさらなる向上に努めること。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会（90％）、日常の取り組み（10％）で評価する。

発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックする。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」（小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年）

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜（担当教員よりその都度指示する）

保育所保育指針（厚生労働省、2017年3月告示）

幼稚園教育要領（文部科学省、2017年3月告示）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示）

科目名： <CUI182> 子どもと音楽表現 【保A】

担当教員： 渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】

子どもと音楽表現 で修得した音楽表現の基礎的な知識を深めるとともに、レパートリーを増やし、音楽表現技術のさらなる向上をめざします。また、他の学生の演奏を聴いたり一緒に歌ったりすること、そして模擬的な歌唱指導に取り組みます。

本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、及び保育士資格取得のための選択必修科目です。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはxadw3n3です。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

保育に関わる専門知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

- 1．音楽表現の指導法に関する理論的基盤を習得することができる。
- 2．さまざまな表現を体験することによって、表現技術の多様性に気づくことができる。
- 3．協働して表現することによって、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
- 4．保育実践力をさらに高めることができる。
- 5．教材研究により音楽の役割を理解することができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション。「子どもと音楽表現」における課題を各自で振り返り、本授業でめざすことを明確化した上で、取り組む楽曲を決定する。

第2回：秋の歌を歌おう。

第3回：季節感のある歌。

第4回：伴奏の形に注目しよう。

第5回：人前で弾き歌いをする練習。

第6回：夏休みの成果を振り返る中間発表会。他者の表現を受け止め、共感する。

第7回：実習に向けて 子ども相手の弾き歌いを行い、子どもの表現活動に展開させる。

第8回：実習に向けて 子どもの生活、季節。

第9回：冬の歌を歌おう。

第10回：コードネームの基礎。

第11回：第7回～第10回の成果を振り返る中間発表会。他者の表現を自分の表現に生かす。

第12回：第11回を振り返り、自身の表現につなげる。

第13回：人前で表情豊かに歌う練習

第14回：さまざまな表現の基礎的な知識技能を生かした発表会

第15回：全体の振り返りとまとめの発表会。表現の多様さを受け入れる。

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「子どもと音楽表現」で身につけた「毎日のコンスタントな練習」（60分）を続行し、音楽表現技術のさらなる向上に努めること。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会（90％）、日常の取り組み（10％）で評価する。

発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックする。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」（小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年）

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜（担当教員よりその都度指示する）

保育所保育指針（厚生労働省、2017年3月告示）

幼稚園教育要領（文部科学省、2017年3月告示）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示）

科目名： <CUI182> 子どもと音楽表現 【保 A】

担当教員： 出木浦 孝(DEKIURA Takashi)

【授業の紹介】

子どもと音楽表現 で修得した音楽表現の基礎的な知識を深めるとともに、レパートリーを増やし、音楽表現技術のさらなる向上をめざします。また、他の学生の演奏を聴いたり一緒に歌ったりすること、そして模擬的な歌唱指導に取り組めます。

本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、及び保育士資格取得のための選択必修科目です。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはxadw3n3です。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

保育に関わる専門知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

- 1．音楽表現の指導法に関する理論的基盤を習得することができる。
- 2．さまざまな表現を体験することによって、表現技術の多様性に気づくことができる。
- 3．協働して表現することによって、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
- 4．保育実践力をさらに高めることができる。
- 5．教材研究により音楽の役割を理解することができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション。「子どもと音楽表現」における課題を各自で振り返り、本授業でめざすことを明確化した上で、取り組む楽曲を決定する。

第2回：秋の歌を歌おう。

第3回：季節感のある歌。

第4回：伴奏の形に注目しよう。

第5回：人前で弾き歌いをする練習。

第6回：夏休みの成果を振り返る中間発表会。他者の表現を受け止め、共感する。

第7回：実習に向けて 子ども相手の弾き歌いを行い、子どもの表現活動に展開させる。

第8回：実習に向けて 子どもの生活、季節。

第9回：冬の歌を歌おう。

第10回：コードネームの基礎。

第11回：第7回～第10回の成果を振り返る中間発表会。他者の表現を自分の表現に生かす。

第12回：第11回を振り返り、自身の表現につなげる。

第13回：人前で表情豊かに歌う練習

第14回：さまざまな表現の基礎的な知識技能を生かした発表会

第15回：全体の振り返りとまとめの発表会。表現の多様さを受け入れる。

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「子どもと音楽表現」で身につけた「毎日のコンスタントな練習」（60分）を続行し、音楽表現技術のさらなる向上に努めること。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会（90％）、日常の取り組み（10％）で評価する。

発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックする。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」（小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年）

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜（担当教員よりその都度指示する）

保育所保育指針（厚生労働省、2017年3月告示）

幼稚園教育要領（文部科学省、2017年3月告示）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示）

科目名： <CUI182> 子どもと音楽表現 【保 B】

担当教員： 出木浦 孝(DEKIURA Takashi)

【授業の紹介】

子どもと音楽表現 で修得した音楽表現の基礎的な知識を深めるとともに、レパートリーを増やし、音楽表現技術のさらなる向上をめざします。また、他の学生の演奏を聴いたり一緒に歌ったりすること、そして模擬的な歌唱指導に取り組めます。

本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、及び保育士資格取得のための選択必修科目です。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはxadw3n3です。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

保育に関わる専門知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

- 1．音楽表現の指導法に関する理論的基盤を習得することができる。
- 2．さまざまな表現を体験することによって、表現技術の多様性に気づくことができる。
- 3．協働して表現することによって、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
- 4．保育実践力をさらに高めることができる。
- 5．教材研究により音楽の役割を理解することができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション。「子どもと音楽表現」における課題を各自で振り返り、本授業でめざすことを明確化した上で、取り組む楽曲を決定する。

第2回：秋の歌を歌おう。

第3回：季節感のある歌。

第4回：伴奏の形に注目しよう。

第5回：人前で弾き歌いをする練習。

第6回：夏休みの成果を振り返る中間発表会。他者の表現を受け止め、共感する。

第7回：実習に向けて 子ども相手の弾き歌いを行い、子どもの表現活動に展開させる。

第8回：実習に向けて 子どもの生活、季節。

第9回：冬の歌を歌おう。

第10回：コードネームの基礎。

第11回：第7回～第10回の成果を振り返る中間発表会。他者の表現を自分の表現に生かす。

第12回：第11回を振り返り、自身の表現につなげる。

第13回：人前で表情豊かに歌う練習

第14回：さまざまな表現の基礎的な知識技能を生かした発表会

第15回：全体の振り返りとまとめの発表会。表現の多様さを受け入れる。

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「子どもと音楽表現」で身につけた「毎日のコンスタントな練習」（60分）を続行し、音楽表現技術のさらなる向上に努めること。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会（90％）、日常の取り組み（10％）で評価する。

発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックする。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」（小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年）

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜（担当教員よりその都度指示する）

保育所保育指針（厚生労働省、2017年3月告示）

幼稚園教育要領（文部科学省、2017年3月告示）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示）

科目名： <CUI182> 子どもと音楽表現 【保 B】

担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

子どもと音楽表現 で修得した音楽表現の基礎的な知識を深めるとともに、レパートリーを増やし、音楽表現技術のさらなる向上をめざします。また、他の学生の演奏を聴いたり一緒に歌ったりすること、そして模擬的な歌唱指導に取り組みます。

本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、及び保育士資格取得のための選択必修科目です。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはxadw3n3です。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

保育に関わる専門知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

- 1．音楽表現の指導法に関する理論的基盤を習得することができる。
- 2．さまざまな表現を体験することによって、表現技術の多様性に気づくことができる。
- 3．協働して表現することによって、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
- 4．保育実践力をさらに高めることができる。
- 5．教材研究により音楽の役割を理解することができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション。「子どもと音楽表現」における課題を各自で振り返り、本授業でめざすことを明確化した上で、取り組む楽曲を決定する。

第2回：秋の歌を歌おう。

第3回：季節感のある歌。

第4回：伴奏の形に注目しよう。

第5回：人前で弾き歌いをする練習。

第6回：夏休みの成果を振り返る中間発表会。他者の表現を受け止め、共感する。

第7回：実習に向けて 子ども相手の弾き歌いを行い、子どもの表現活動に展開させる。

第8回：実習に向けて 子どもの生活、季節。

第9回：冬の歌を歌おう。

第10回：コードネームの基礎。

第11回：第7回～第10回の成果を振り返る中間発表会。他者の表現を自分の表現に生かす。

第12回：第11回を振り返り、自身の表現につなげる。

第13回：人前で表情豊かに歌う練習

第14回：さまざまな表現の基礎的な知識技能を生かした発表会

第15回：全体の振り返りとまとめの発表会。表現の多様さを受け入れる。

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「子どもと音楽表現」で身につけた「毎日のコンスタントな練習」（60分）を続行し、音楽表現技術のさらなる向上に努めること。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会（90％）、日常の取り組み（10％）で評価する。

発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックする。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」（小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年）

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜（担当教員よりその都度指示する）

保育所保育指針（厚生労働省、2017年3月告示）

幼稚園教育要領（文部科学省、2017年3月告示）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示）

科目名： <CUI182> 子どもと音楽表現 【保B】

担当教員： 渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】

子どもと音楽表現 で修得した音楽表現の基礎的な知識を深めるとともに、レパートリーを増やし、音楽表現技術のさらなる向上をめざします。また、他の学生の演奏を聴いたり一緒に歌ったりすること、そして模擬的な歌唱指導に取り組みます。

本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、及び保育士資格取得のための選択必修科目です。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはxadw3n3です。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

保育に関わる専門知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

- 1．音楽表現の指導法に関する理論的基盤を習得することができる。
- 2．さまざまな表現を体験することによって、表現技術の多様性に気づくことができる。
- 3．協働して表現することによって、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
- 4．保育実践力をさらに高めることができる。
- 5．教材研究により音楽の役割を理解することができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション。「子どもと音楽表現」における課題を各自で振り返り、本授業でめざすことを明確化した上で、取り組む楽曲を決定する。

第2回：秋の歌を歌おう。

第3回：季節感のある歌。

第4回：伴奏の形に注目しよう。

第5回：人前で弾き歌いをする練習。

第6回：夏休みの成果を振り返る中間発表会。他者の表現を受け止め、共感する。

第7回：実習に向けて 子ども相手の弾き歌いを行い、子どもの表現活動に展開させる。

第8回：実習に向けて 子どもの生活、季節。

第9回：冬の歌を歌おう。

第10回：コードネームの基礎。

第11回：第7回～第10回の成果を振り返る中間発表会。他者の表現を自分の表現に生かす。

第12回：第11回を振り返り、自身の表現につなげる。

第13回：人前で表情豊かに歌う練習

第14回：さまざまな表現の基礎的な知識技能を生かした発表会

第15回：全体の振り返りとまとめの発表会。表現の多様さを受け入れる。

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「子どもと音楽表現」で身につけた「毎日のコンスタントな練習」（60分）を続行し、音楽表現技術のさらなる向上に努めること。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会（90％）、日常の取り組み（10％）で評価する。

発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックする。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」（小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年）

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜（担当教員よりその都度指示する）

保育所保育指針（厚生労働省、2017年3月告示）

幼稚園教育要領（文部科学省、2017年3月告示）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示）

科目名： <CUI182> 子どもと音楽表現 【保B】

担当教員： 柴田 玲子(SHIBATA Reiko)

【授業の紹介】

子どもと音楽表現 で修得した音楽表現の基礎的な知識を深めるとともに、レパートリーを増やし、音楽表現技術のさらなる向上をめざします。また、他の学生の演奏を聴いたり一緒に歌ったりすること、そして模擬的な歌唱指導に取り組みます。

本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、及び保育士資格取得のための選択必修科目です。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはxadw3n3です。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

保育に関わる専門知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

- 1．音楽表現の指導法に関する理論的基盤を習得することができる。
- 2．さまざまな表現を体験することによって、表現技術の多様性に気づくことができる。
- 3．協働して表現することによって、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
- 4．保育実践力をさらに高めることができる。
- 5．教材研究により音楽の役割を理解することができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション。「子どもと音楽表現」における課題を各自で振り返り、本授業でめざすことを明確化した上で、取り組む楽曲を決定する。

第2回：秋の歌を歌おう。

第3回：季節感のある歌。

第4回：伴奏の形に注目しよう。

第5回：人前で弾き歌いをする練習。

第6回：夏休みの成果を振り返る中間発表会。他者の表現を受け止め、共感する。

第7回：実習に向けて 子ども相手の弾き歌いを行い、子どもの表現活動に展開させる。

第8回：実習に向けて 子どもの生活、季節。

第9回：冬の歌を歌おう。

第10回：コードネームの基礎。

第11回：第7回～第10回の成果を振り返る中間発表会。他者の表現を自分の表現に生かす。

第12回：第11回を振り返り、自身の表現につなげる。

第13回：人前で表情豊かに歌う練習

第14回：さまざまな表現の基礎的な知識技能を生かした発表会

第15回：全体の振り返りとまとめの発表会。表現の多様さを受け入れる。

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「子どもと音楽表現」で身につけた「毎日のコンスタントな練習」（60分）を続行し、音楽表現技術のさらなる向上に努めること。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会（90％）、日常の取り組み（10％）で評価する。

発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックする。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」（小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年）

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜（担当教員よりその都度指示する）

保育所保育指針（厚生労働省、2017年3月告示）

幼稚園教育要領（文部科学省、2017年3月告示）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示）

科目名： 教育の原理と制度

担当教員： 相馬 宗胤(SOMA Munetane), 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi)

【授業の紹介】

本授業科目は、教育について考える授業です。教育を考えるための基本概念や教育の歴史、思想、制度などを学習することを通じて、保育者をめざしている自分自身の在り方や、より良い教育・保育について考える授業科目です。

本授業科目の前半は、教育の歴史や思想などを中心に学習します。学校教育だけでなく、就学前に行われる教育・保育（子ども家庭福祉含む）や学校卒業後に展開される教育なども射程に入れつつ、教育の歴史的展開や重要な教育理論・教育思想などを学習します。そして、これらの学習を通じて、現代の教育の特性・課題や自分自身が受けてきた教育について考えていこうとするものです。

本授業科目の後半は、教育の制度を中心に学習します。私たち国民は、教育を行うために税金を納め、法律を定め、幼稚園から大学までの公私立学校を作り、さらには社会人のための学習機会を設け、また、地域との連携や安全にも取り組んでいます。そこには行政機関が関わっています。そのような考え方や仕組みについて基礎知識を学び、それらのメリットや課題についても理解していくことをめざします。以上のような事柄を理解しておくことは、保育者として責任を果たすために必要なことであるということを理解して欲しいと考えています。

本授業科目は、保育学科の卒業必修科目です。加えて、幼稚園教諭二種免許状、そして保育士資格取得のための必修科目でもあります。また、本授業科目の単位を認定されていることが、1年次後期の「保育実習」「観察参加」を履修するための条件となっています。

本授業科目では、課題の指示や提出にあたりGoogle Classroomを使用します。クラスコードは第1回授業時に連絡します。

< 卒業認定・学位授与の方針における関連項目 >

3．高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力

< 学修成果における関連項目 >

使命感

規範意識

自律心

指針・要領の理解

保育に関わる専門的知識の習得

洞察・判断する力

【到達目標】

- 1．保育者として持つべき規範意識や態度（使命感、規範意識、自律心など）について、自分自身を振り返りながら考えることができています。
- 2．教育学の基本概念や重要な理論・思想について、その意味・内容を正しく理解できている。
- 3．公教育の原理や理念、公教育制度を構成している関係法規や教育行政について正しく理解できている。
- 4．現代教育をめぐる諸課題について例示することができている。

【授業計画】

- | | | |
|------|------------------------------|------|
| 第1回 | 授業の説明 / 教育の構造、教育への期待 | （相馬） |
| 第2回 | 学校教育の歴史と構造 | （相馬） |
| 第3回 | 家庭教育の歴史と構造 | （相馬） |
| 第4回 | 社会教育の歴史と構造 | （相馬） |
| 第5回 | 教育実践の基礎理論 —— 教育の目標、計画 | （相馬） |
| 第6回 | 教育実践の基礎理論 —— 教育の評価、省察 | （相馬） |
| 第7回 | 様々な教育思想 —— コメニウス、ルソー、ペスタロッチー | （相馬） |
| 第8回 | 様々な教育思想 —— ヘルバルト、デューイ | （相馬） |
| 第9回 | 現代社会における教育の課題 | （相馬） |
| 第10回 | 中間テスト（フィードバック含む） | （相馬） |
| 第11回 | 公教育の基本原則と教育制度 | （佐竹） |
| 第12回 | 教育制度と教育法規 | （佐竹） |
| 第13回 | 学校制度の実際 | （佐竹） |
| 第14回 | 教育行政制度の仕組み | （佐竹） |
| 第15回 | 学校や地域の連携と危機管理 | （佐竹） |
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

- ・各授業の復習として、課題（理解度確認テストや記述課題など）を提示するので、それに取り組む（毎週1時間）。
- ・次回授業の予習として、課題（資料の読み込みや記述課題など）を提示するので、それに取り組む（毎週1時間）。
- ・数度実施するテストに向けた勉強と復習を行う（学期中に少なくとも30時間）。

【成績の評価】

A. 第1～10回の授業での評価（相馬担当分）

- ・予習・復習課題の内容（50%）
- ・中間テストの得点（50%）

B. 第11～15回の授業での評価（佐竹担当分）

- ・毎回の授業終了時に課する小課題の内容（50%）
- ・予習・復習課題の内容（50%）

AとBについて、それぞれ100点満点で成績を算出した後、両者の平均点を本授業科目の最終成績とします。

各課題については、授業の時間やGoogle Classroomを用いてフィードバックを行います。

【使用テキスト】

『コンパス 教育原理』（古賀一博他編、建帛社、2021年）。

【参考文献】

- ・『幼稚園教育要領』（文部科学省、2017年3月告示）。
 - ・『保育所保育指針』（厚生労働省、2017年3月告示）。
 - ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示）。
 - ・『必携教職六法2024』（高見茂監修、協同出版、2023年）。
- その他、授業時に、適宜、紹介します。

科目名： <ECE102> 保育者論

担当教員： 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi), 相馬 宗胤(SOMA Munetane)

【授業の紹介】

本講義では、幼稚園教諭、保育所保育士、こども園保育教諭などの教育・保育に関わる仕事に求められる資質・能力について学びます。そのような仕事に就くには、まず、教育・保育に求められる愛情、責任感、広い視野、熱意、協働性など保育職にふさわしい人間性が備わっていなければなりません。その上で保育職に関する専門知識やそれを活用する技能、洞察力や判断力、実践力が必要です。さらに教育・保育に従事する職業人に求められる専門知識、使命感・倫理観、資格、勤務条件、研修、連携・協働するなどの基礎的な知識、理解、そして実行力です。それらのうち多くが下の本学科の<卒業認定・学位授与の方針>に示されるものです。それらはまた、教育課程編成・実施の方針にある「保育学科のめざす保育者像」に求められているものでもあり、保育学科が設定している12の学修成果にも含まれています。

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目です。この授業を通して、今日の保育者に求められる資質・能力を理解し、保育者として社会に貢献する意欲を高めることを期待しています。さらに、自らの特性を生かした自分なりの保育者像を形成できるとともに、保育者としての自分の発達課題を見いだすことも期待しています。

なお、授業に関する課題や試験結果などのフィードバックをする場合、Google Classroomを使用することがあるので、毎回確認して下さい。「保育者論」のクラスコードは第1回の授業の時に連絡します。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

1. 子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観
2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力

<学修成果における関連項目>

使命感
規範意識
自律心
協働・連携する力
指針・要領の理解
保育に関わる専門的知識の習得
洞察・判断する力

【到達目標】

1. 保育職のあり方について考えることを通して、保育者として持つべき資質、使命感・倫理観や規範意識を体得し、実践できる。
2. 保育職としてそれぞれの職場で協働・連携する力を備えることができる。
3. 保育者に求められる基礎知識と専門的知識、それらを駆使した洞察力や判断力、実践力を確実に習得できる。
4. 保育職を目指すものとして、現在の自分の長所やこれから身に付けるべきことを自らの発達課題として自覚できる。
5. 人の発言を聞き取り、資料を読み取り、そしてメモする習慣を身に付けている。

【授業計画】

- | | | |
|------|---------------------------------|------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション：本授業及び授業者について―意見交換を含む― | (担当：佐竹) |
| 第2回 | 保育者の人間性 | 1) 西洋の保育者思想(担当：相馬) |
| 第3回 | 保育者の人間性 | 2) 我が国の保育者像(担当：相馬) |
| 第4回 | 保育者の人間性 | 3) 現代の保育者像(担当：相馬) |
| 第5回 | 保育者の人間性 | 4) 保育者に求められる人間性(担当：相馬) |
| 第6回 | 保育者の人間性 | 5) 保育者に求められる人間性(事例研究1)、小テスト(担当：相馬) |
| 第7回 | 保育者の専門性 | 1) 求められる専門性の変遷(担当：佐竹) |
| 第8回 | 保育者の専門性 | 2) 幼稚園教諭に求められる専門性(担当：佐竹) |
| 第9回 | 保育者の専門性 | 3) 保育士に求められる専門性(担当：佐竹) |
| 第10回 | 保育者の専門性 | 4) 保育者に求められる専門性(事例研究2)、小テスト(担当：佐竹) |
| 第11回 | 職業人としての保育者 | 1) 職務、身分、任用、免許状・資格(担当：佐竹) |
| 第12回 | 職業人としての保育者 | 2) 服務規律、規範意識、分限・懲戒(担当：佐竹) |
| 第13回 | 職業人としての保育者 | 3) 勤務条件、研修、小テスト(担当：佐竹) |
| 第14回 | 職業人としての保育者 | 4) チームとしての連携・協働(事例研究3)(担当：佐竹) |
| 第15回 | 職業人としての保育者 | 5) 危機管理(事例研究4)、小テスト(担当：佐竹) |

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「保育者論」では、授業時間外の学習として合計60時間に相当する学習を求めます。その1つは、毎回の授業の復習として、授業の配付資料や自身のメモなどを整理して自作のファイルに綴じることを求めます（毎回1時間程度）。2つには、各回の授業の最後にその回の復習課題と次回の予習のポイントを指示するので、自己学習時に取り組むことです（毎回1時間程度）。さらに、小テストに備えた準備（合計30時間）が必要になります。

【成績の評価】

- A．第2～6回の授業での評価
 - ・予習・復習課題の内容（50％）
 - ・小テストの得点（50％）
- B．第7～15回の授業での評価
 - ・毎回の授業終了時の小課題の内容（30％）
 - ・予習・復習課題の内容（20％）
 - ・小テストの得点（50％）

AとBについて、それぞれ100点満点で成績を算出した後、両者の平均点を本授業科目の最終成績とします。

各課題については授業の時間やGoogle Classroomを用いてフィードバックを行います。

【使用テキスト】

なし。授業時に必要な資料を配付します。

【参考文献】

- ・『保育者論—共生へのまなざし—』（榎沢良彦他編著、同文書院、2020年）
 - ・『幼稚園教育要領』（文部科学省、平成29年3月告示）
 - ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、平成29年3月告示）
 - ・『保育所保育指針』（厚生労働省、平成29年3月告示）
 - ・『保育福祉小六法 2023年度版』（保育福祉小六法編集委員会編、みらい、2023年）
- その他、授業中に、適宜、紹介します。

科目名： <PSW102> 子どもの発達と教育の心理学

担当教員： 中村 多見(NAKAMURA Tami)

【授業の紹介】

本授業科目は、「子どもたちが生き生きと主体的に学ぶことを支える」ために保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解することを目的とします。特に、乳幼児期の子どもたちは遊びのなかで、できることを少しずつ増やして、自らの自由や可能性を大いに広げていくため、養護及び教育の一体性や発達に即した援助を基本とできるような子ども理解が求められます。この授業では、子どもの知的発達と学びのしくみを理解することはもちろん、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解し、その上で「子どもたちが生き生きと主体的に学ぶことを支える」保育者をめざして学びます。

本授業科目は、卒業必修科目です。加えて、本授業科目は幼稚園教諭二種免許状および保育士資格取得のための必修科目です。

本授業科目では、授業前後の課題や資料等を配信・提出するにあたりGoogle Classroomを使用します。

< 卒業認定・学位授与の方針における関連項目 >

3．高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力

< 学修成果における関連項目 >

使命感

自律心

指針・要領の理解

保育に関わる専門的知識の習得

【到達目標】

- 1．子どもの知的発達を支える保育者の使命感や倫理観を高めることができる
- 2．主として人間の知的発達に関する継続的学習を通して保育者らしい人間性を育むことができる
- 3．主として人間の知的発達、ならびに知的発達を支える保育に関する専門的知識や思考力を身に付けることができる
- 4．知的発達を支える保育実践の基礎を培うことができる

以上を通じて、保育の対象となる乳幼児の心身の発達及び学習の過程についての知識を身につけ、心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解することができます。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション（子どもの発達と教育の心理学を学ぶ意義）

第2回：子どもの発達と教育 - 発達に応じた教育

第3回：子どもの発達と教育 - 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

第4回：知的能力の発達

第5回：行動主義からみた学習のしくみ

第6回：認知主義からみた学習のしくみ

第7回：記憶の成り立ち

第8回：学びの動機づけ

第9回：学習行動の基礎に基づく保育的かかわり - 身体・運動の発達

第10回：学習行動の基礎に基づく保育的かかわり - 認知・言語の発達

第11回：学習行動の基礎に基づく保育的かかわり - 感情・社会性の発達

第12回：保育・教育における評価

第13回：子どもを取り巻く地域福祉問題の現状 - 養育環境

第14回：子どもを取り巻く地域福祉問題の現状 - 児童虐待

第15回：就学に向けて（小学校との連携・接続）

定期試験

【授業時間外の学習】

予習：次回の講義内容を確認し、予習シートに沿った調べ物をしてくること（1時間）。

復習：授業後は発展課題に取り組み、試験出題時までには回答をまとめておくこと（3時間）。

【成績の評価】

成績は、授業への出席時に提出される学習シート及びレポートの内容（10%）と定期試験の結果（90%）で評価します。

学習シートは毎回点検・返却することでフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しません。

【参考文献】

- ・松本峰雄監修 大野雄子・小池庸生・小林 玄・前川洋子著『よくわかる！保育士エクササイズ 保育の心理学演習ブック〔第2版〕』（ミネルヴァ書房、2021年）
- ・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- ・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

科目名： <ECE231> 特別支援教育・保育 【保A】

担当教員： 川田 人包(KAWATA Hitokane)

【授業の紹介】

公立学校にて、特別支援教育担当教員として長年特別支援教育に携わってきた実務経験をもとに講義を行います。

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状、そして保育士資格取得のための必修科目です。

その上で、特別支援教育・保育 の内容は、特別の支援を必要とする多様化した子ども一人ひとりを正しく理解しニーズに応じた指導や支援が行える実践的な保育力を養います。また、乳幼児期の課題や望ましい支援のあり方を、保護者や専門機関と連携して課題解決していく力を養います。

本授業科目は、課題の提示や提出にあたり「Google Classroom」を活用します。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

3．高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力

<学修成果における関連項目>

指針や要領の理解

保育に関わる専門的知識の習得

洞察・判断する力

【到達目標】

- 1．インクルーシブ教育の基本的な考え方を学び、保育者として問題意識や人権意識を高める。
- 2．障がいのある子どもの保育・教育の意義と理念を、指針や要領との関連で理解する。
- 3．特別の支援を必要とする子どもの様々な特性を理解し、一人ひとりの実態把握が望ましい支援につながることを理解する。
- 4．家庭や専門機関等との連携や協働のあり方について修得をめざす。
- 5．特別支援教育の対象となる疾患や特性等について理解を深め、その内容を説明できる。

【授業計画】

Google classroomのクラスコードは「psg6w62」です。予習・復習・提出物に活用しますので、必ず登録してください。

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 特別支援教育について - 歴史と現状 - |
| 第3回 | インクルーシブ保育の意義と課題 |
| 第4回 | ICFと「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」 |
| 第5回 | 幼児の理解と支援 運動発達と認知発達 |
| 第6回 | 幼児の理解と支援 発達課題 |
| 第7回 | 幼児の理解と支援 視覚障害児・聴覚障害児 |
| 第8回 | 幼児の理解と支援 知的障害児 |
| 第9回 | 幼児の理解と支援 病弱虚弱児・肢体不自由児 |
| 第10回 | 幼児の理解と支援 重度・重複障害児 - 医療的ケア対象児等 |
| 第11回 | 幼児の理解と支援 発達障害児 - 自閉症スペクトラム障害児等 |
| 第12回 | 幼児の理解と支援 発達障害児 - LD児・AD/HD児等 |
| 第13回 | 幼児の理解と支援 被虐待児、生活困窮児等 |
| 第14回 | 幼児の理解と支援 家族支援と就学支援 |
| 第15回 | 専門機関との連携と地域支援 |

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿します。使用テキスト等を通して予習した内容を簡潔にレポートすることを求めます（予習2時間）。また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の提出を求めます（復習2時間）。

【成績の評価】

受講態度（30%）、提出物（30%）、小筆記試験（40%）を総合して成績を評価します。レポートについては、その都度授業時に講評し、フィードバックを行います。小筆記試験に対してもフィードバックを行います。

【使用テキスト】

「よくわかる障害児保育」尾崎康子他編著 ミネルヴァ書房（2018年）

【参考文献】

適宜レジュメや資料を配付します。参考文献は必要に応じて講義内で紹介します。

科目名： <ECE231> 特別支援教育・保育 【保B】

担当教員： 川田 人包(KAWATA Hitokane)

【授業の紹介】

公立学校にて、特別支援教育担当教員として長年特別支援教育に携わってきた実務経験をもとに講義を行います。

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状、そして保育士資格取得のための必修科目です。

その上で、特別支援教育・保育の内容は、特別の支援を必要とする多様化した子ども一人ひとりを正しく理解しニーズに応じた指導や支援が行える実践的な保育力を養います。また、乳幼児期の課題や望ましい支援のあり方を、保護者や専門機関と連携して課題解決していく力を養います。

本授業科目は、課題の提示や提出にあたり「Google Classroom」を活用します。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

3．高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力

<学修成果における関連項目>

指針や要領の理解

保育に関わる専門的知識の習得

洞察・判断する力

【到達目標】

- 1．インクルーシブ教育の基本的な考え方を学び、保育者として問題意識や人権意識を高める。
- 2．障がいのある子どもの保育・教育の意義と理念を、指針や要領との関連で理解する。
- 3．特別の支援を必要とする子どもの様々な特性を理解し、一人ひとりの実態把握が望ましい支援につながることを理解する。
- 4．家庭や専門機関等との連携や協働のあり方について修得をめざす。
- 5．特別支援教育の対象となる疾患や特性等について理解を深め、その内容を説明できる。

【授業計画】

Google classroomのクラスコードは「psg6w62」です。予習・復習・提出物に活用しますので、必ず登録してください。

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 特別支援教育について - 歴史と現状 - |
| 第3回 | インクルーシブ保育の意義と課題 |
| 第4回 | ICFと「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」 |
| 第5回 | 幼児の理解と支援 運動発達と認知発達 |
| 第6回 | 幼児の理解と支援 発達課題 |
| 第7回 | 幼児の理解と支援 視覚障害児・聴覚障害児 |
| 第8回 | 幼児の理解と支援 知的障害児 |
| 第9回 | 幼児の理解と支援 病弱虚弱児・肢体不自由児 |
| 第10回 | 幼児の理解と支援 重度・重複障害児 - 医療的ケア対象児含 |
| 第11回 | 幼児の理解と支援 発達障害児 - 自閉症スペクトラム障害児等 |
| 第12回 | 幼児の理解と支援 発達障害児 - LD児・AD/HD児等 |
| 第13回 | 幼児の理解と支援 被虐待児、生活困窮児等 |
| 第14回 | 幼児の理解と支援 家族支援と就学支援 |
| 第15回 | 専門機関との連携と地域支援 |

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿します。使用テキスト等を通して予習した内容を簡潔にレポートすることを求めます（予習2時間）。また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の提出を求めます（復習2時間）。

【成績の評価】

受講態度（30%）、提出物（30%）、小筆記試験（40%）を総合して成績を評価します。レポートについては、その都度授業時に講評し、フィードバックを行います。小筆記試験に対してもフィードバックを行います。

【使用テキスト】

「よくわかる障害児保育」尾崎康子他編著 ミネルヴァ書房（2018年）

【参考文献】

適宜レジュメや資料を配付します。参考文献は必要に応じて講義内で紹介します。

科目名： <ECE232> 特別支援教育・保育 【保A】

担当教員： 川田 人包(KAWATA Hitokane)

【授業の紹介】

公立学校にて、特別支援教育担当教員として長年特別支援教育に携わってきた実務経験をもとに講義を行います。

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状、そして保育士資格取得のための必修科目であります。

その上で、「特別支援教育・保育」では、「特別支援教育・保育」の学びをふまえ、保育・教育現場の事例検討やグループ討議、実技指導等の演習を通して、特別な教育的ニーズのある幼児児童に対する実態把握に基づき具体的な支援の内容や方法を実践的に学ぶことができるように解説します。また、様々な理論や方法に関する演習を通して洞察力や子どもの行動を分析する力を養います。

本授業科目は、課題の提示や提出にあたり「Google Classroom」を活用します。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

3．高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力

<学修成果における関連項目>

保育に関わる専門的知識の習得

洞察・判断する力

【到達目標】

- 1．インクルーシブ教育や特別支援教育の基本概念について、その意味や内容を説明できる。
- 2．効果的な指導法や理論を通して特別支援教育に係る専門的な知識や技術を培うことができる。
- 3．特別な支援を必要とする幼児等の保育や教育における「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」の意義を学び、継続的に偏りのない支援に向けて実際に作成できる。
- 4．保護者への支援や専門機関との連携、特別支援教育コーディネーターの役割等について学び、一人ひとりの子どもが健やかに育つユニバーサルな環境やチームアプローチに向けて実践力を培うことができる。

【授業計画】

Google classroomのクラスコードは「zlvqkxr」です。

予習・復習・レポート（提出物）等に活用しますので必ず登録しておいてください。

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 障害児保育・特別支援教育の理念と役割
 - 第3回 アセスメントについて
 - 第4回 観察法・面接法・心理検査等
 - 第5回 「個別的教育支援計画」と「個別の指導計画」の作成
 - 第6回 ユニバーサルデザインによる環境づくり、授業づくり
 - 第7回 モンテッソーリ法について
 - 第8回 ソーシャルスキルトレーニング
 - 第9回 感覚運動遊び - ムーブメント教育 -
 - 第10回 セルフコントロール - 臨床動作法 -
 - 第11回 コミュニケーション
 - 第12回 療育や発達支援に関わる専門家との連携と協働
 - 第13回 事例検討 ~発達障害児への対応
 - 第14回 事例検討 ~ポジティブな行動支援（応用行動分析）
 - 第15回 からだとこころ - ストレスマネジメント教育 -
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿します。使用テキスト等を通して予習した内容を簡潔にレポートすることを求めます（予習2時間）。また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の提出を求めます（復習2時間）。

【成績の評価】

受講態度（30%）、提出物（30%）、小筆記試験（40%）を総合して成績を評価します。

レポートについては、その都度授業時に講評し、フィードバックを行う。小筆記試験に対してもフィードバックを行う。

【使用テキスト】

「よくわかる障害児保育」尾崎康子他編著 ミネルヴァ書房（2018年）

【参考文献】

適宜レジュメや資料を配付し、必要に応じて「Google Classroom」や講義内で紹介する。

科目名： <ECE232> 特別支援教育・保育 【保 B】

担当教員： 川田 人包(KAWATA Hitokane)

【授業の紹介】

公立学校にて、特別支援教育担当教員として長年特別支援教育に携わってきた実務経験をもとに講義を行います。

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状、そして保育士資格取得のための必修科目であります。

その上で、「特別支援教育・保育」では、「特別支援教育・保育」の学びをふまえ、保育・教育現場の事例検討やグループ討議、実技指導等の演習を通して、特別な教育的ニーズのある幼児児童に対する実態把握に基づき具体的な支援の内容や方法を実践的に学ぶことができるように解説します。また、様々な理論や方法に関する演習を通して洞察力や子どもの行動を分析する力を養います。

本授業科目は、課題の提示や提出にあたり「Google Classroom」を活用します。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

3．高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力

<学修成果における関連項目>

保育に関わる専門的知識の習得

洞察・判断する力

【到達目標】

- 1．インクルーシブ教育や特別支援教育の基本概念について、その意味や内容を説明できる。
- 2．効果的な指導法や理論を通して特別支援教育に係る専門的な知識や技術を培うことができる。
- 3．特別な支援を必要とする幼児等の保育や教育における「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」の意義を学び、継続的に偏りのない支援に向けて実際に作成できる。
- 4．保護者への支援や専門機関との連携、特別支援教育コーディネーターの役割等について学び、一人ひとりの子どもが健やかに育つユニバーサルな環境やチームアプローチに向けて実践力を培うことができる。

【授業計画】

Google classroomのクラスコードは「zlvqkxr」です。

予習・復習・レポート（提出物）等に活用しますので必ず登録しておいてください。

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 障害児保育・特別支援教育の理念と役割
 - 第3回 アセスメントについて
 - 第4回 観察法・面接法・心理検査等
 - 第5回 「個別的教育支援計画」と「個別の指導計画」の作成
 - 第6回 ユニバーサルデザインによる環境づくり、授業づくり
 - 第7回 モンテッソーリ法について
 - 第8回 ソーシャルスキルトレーニング
 - 第9回 感覚運動遊び - ムーブメント教育 -
 - 第10回 セルフコントロール - 臨床動作法 -
 - 第11回 コミュニケーション
 - 第12回 療育や発達支援に関わる専門家との連携と協働
 - 第13回 事例検討 ~ 発達障害児への対応
 - 第14回 事例検討 ~ ポジティブな行動支援（応用行動分析）
 - 第15回 からだとこころ - ストレスマネジメント教育 -
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿します。使用テキスト等を通して予習した内容を簡潔にレポートすることを求めます（予習2時間）。また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の提出を求めます（復習2時間）。

【成績の評価】

受講態度（30%）、提出物（30%）、小筆記試験（40%）を総合して成績を評価します。

レポートについては、その都度授業時に講評し、フィードバックを行う。小筆記試験に対してもフィードバックを行う。

【使用テキスト】

「よくわかる障害児保育」尾崎康子他編著 ミネルヴァ書房（2018年）

【参考文献】

適宜レジュメや資料を配付し、必要に応じて「Google Classroom」や講義内で紹介する。

科目名： <CUI212> 保育と教育のカリキュラム論

担当教員： 佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園・こども園で、教員・園長として教育・保育のカリキュラムを作成した経験を生かして授業を行います。

幼稚園等では、保育者が子どもたちと楽しそうに遊び、生活が展開されていますが、すべての活動は、教育・保育のカリキュラムに基づいて行われています。この授業では、各幼稚園等において編成される教育・保育のカリキュラムについて、その意義や編成の方法を理解するとともに、実態に応じてカリキュラム・マネジメントしながら豊かな保育実践が行えるよう、学んでいきます。

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目です。

なお、本授業科目では課題の指示や提出にあたりGoogleClassroomも使用します。

< 卒業認定・学位授与の方針における関連項目 >

3．高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力

4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

< 学修成果における関連項目 >

指針・要領の理解

保育に関わる専門的知識の習得

洞察・判断する力

保育を計画する力

【到達目標】

「保育学科のめざす保育者像」に基づき、次の3つを到達目標と設定します。

1．幼児教育において、教育・保育のカリキュラムが有する役割や機能、並びに意義を、要領・指針等を基に理解することによって、使命感や倫理観を高めることができる。

2．教育・保育のカリキュラム編成の基本原則、並びに幼稚園等の保育実践に即した教育・保育のカリキュラム編成の方法等、保育を計画するための専門的知識を習得することができる。

3．園・所の教育・保育カリキュラム全体を、多角的に考えマネジメントすることの意義を理解し、豊かな保育実践の基盤を培うことができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション、

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」とは

第2回：教育・保育カリキュラムの基礎的概念

第3回：幼稚園・保育所・こども園の歴史的変遷の概要及び保育をめぐる環境・現代の保育事情

第4回：幼稚園・保育所・こども園の生活と子ども理解

第5回：教育要領・保育指針等における保育のねらい・内容及び内容の取扱い

第6回：保育の循環と評価の意義

第7回：子どもの発達過程の概要

第8回：子どもの発達特性や発達過程を指導計画に生かす方法の理解(総合的な遊びを通して)

第9回：幼稚園、保育所、こども園における教育・保育カリキュラム(全体的指導)の実際

第10回：幼稚園、保育所、こども園における指導計画(月・週案等)の実際

第11回：教育・保育カリキュラムの編成と展開について

第12回：指導計画の作成と展開について (月の指導計画)

第13回：指導計画の作成と展開について (週の指導計画)

第14回：指導計画の作成と展開について (週案から保育指導案へ)

第15回：幼稚園、保育所、こども園における保育の評価の実際

定期試験

【授業時間外の学習】

予習として、次回の授業内容に関係する範囲の指定教科書を読むとともに、幼稚園教育要領等の関連箇所を確認し、ノートにまとめておくこと。(2時間) 授業後は、振り返りシートに授業の復習内容や次回の予習内容等を記入し、提出すること(2時間)

【成績の評価】

授業に取り組む意欲・関心・態度(20%)、学習シート等の課題の記入や提出(40%)、

定期試験(40%)で評価します。

課題の返却により振り返りを行うことでフィードバックします。

【使用テキスト】

- ・教育課程論（神長美津子・津金美智子・河合優子・塩谷香 編著、光生館 2018年）
- ・保育所保育指針解説（厚生労働省 フレーベル館 2018年）
- ・幼稚園教育要領解説（文部科学省 フレーベル館 2018年）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年）

【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： <CUI202> 保育・教育の方法及び技術 B【保 A】

担当教員： 中村 多見(NAKAMURA Tami)

【授業の紹介】

本授業科目は、主にパソコンを使用しながら ICT を活用した保育実践についての方法及び技術を学びます。いまや保育現場における ICT 化推進の動向は著しく、多様な教育情報機器及び教材の活用は保育者に必要な専門的知識と保育実践力になっています。「分からない」「できない」ではとても困ります。また、教育情報機器及び教材の活用を適正に行うことも非常に重要であるため、個人情報保護のもと、著作権や肖像権等にも十分配慮した倫理を有するための情報モラル教育についても修得します。

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目です。また、保育士資格取得のための選択必修科目です。

本授業科目では、授業前後の課題や資料等を配信・提出するにあたり Google Classroom を使用します。

< 卒業認定・学位授与の方針における関連項目 >

3．高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力

4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

< 学修成果における関連項目 >

規範意識

協働・連携する力

保育に関わる専門的知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

- 1．倫理的な教育情報機器及び教材の活用を通じて、保育の質を向上させようという使命感・倫理観を高めることができる
 - 2．教育情報機器及び教材に対する苦手意識を克服し、教育情報機器及び教材の活用に意欲的な人間性を育むことができる
 - 3．保育現場における ICT 化推進の動向を知り、適切な教育情報機器及び教材の活用ができるようになる
 - 4．保育現場で役立つ教育情報機器及び教材の活用の基本操作を身に付け、保育素材を作ることができる
- 以上を通じて、この授業では、保育に役立つ教育情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることができます。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：学生の情報活用能力チェック
 - 第3回：情報モラル教育の内容
 - 第4回：情報モラル教育の指導法
 - 第5回：ICT を活用した指導方法
 - 第6回：ICT を活用した保育教材の研究
 - 第7回：Society 5.0 で実現する社会と育成すべき資質・能力についての基本
 - 第8回：教育の情報化ビジョン（ICT を活用した教育の推進）
 - 第9回：ICT を活用した保育指導案の作成
 - 第10回：ICT を活用した保育事例の紹介（1） - アナログとデジタルの融合
 - 第11回：ICT を活用した保育事例の紹介（2） - コミュニケーション・ツール
 - 第12回：ICT を活用した模擬保育の実践（1） - 想像と創造をテーマに
 - 第13回：ICT を活用した模擬保育の実践（2） - 対話と思考をテーマに
 - 第14回：幼児期にふさわしい評価の在り方
 - 第15回：模擬保育の振り返り（自己点検と相互評価）
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

予習：次回の演習内容を確認し、授業に必要な材料や情報の収集・整理をしていくこと（1時間）。

復習：授業後は課題制作に取り組み、期限内に完成度の高いものを提出すること（2時間）。

【成績の評価】

成績は、授業への出席時の課題提出（40%）とその出来栄（60%）で評価します。フィードバックは、授業内で課題の作成や調整・修正時に点検しながら行います。

【使用テキスト】

テキストは使用しません。

【参考文献】

- ・堀田博史・松河秀哉・森田健宏編著『保育・幼児教育に携わる人の情報処理テキスト 幼稚園・保育所の保育実践とメディアの活用』（みるめ書房、2013年）
- ・阿部正平・阿部和子・ホソノヨーコ著『保育者のためのパソコン講座 保育事例で習得するワープロ・表計算・プレゼンテーションからホームページ作成』（萌文書林、2006年）

科目名： < CUI202 > 保育・教育の方法及び技術 B 【保 B】

担当教員： 中村 多見 (NAKAMURA Tami)

【授業の紹介】

本授業科目は、主にパソコンを使用しながら ICT を活用した保育実践についての方法及び技術を学びます。いまや保育現場における ICT 化推進の動向は著しく、多様な教育情報機器及び教材の活用は保育者に必要な専門的知識と保育実践力になっています。「分からない」「できない」ではとても困ります。また、教育情報機器及び教材の活用を適正に行うことも非常に重要であるため、個人情報保護のもと、著作権や肖像権等にも十分配慮した倫理を有するための情報モラル教育についても修得します。

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目です。また、保育士資格取得のための選択必修科目です。

本授業科目では、授業前後の課題や資料等を配信・提出するにあたり Google Classroom を使用します。

< 卒業認定・学位授与の方針における関連項目 >

3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力

4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

< 学修成果における関連項目 >

規範意識

協働・連携する力

保育に関わる専門的知識の習得

表現技術と創造力

保育を計画する力

【到達目標】

1. 倫理的な教育情報機器及び教材の活用を通じて、保育の質を向上させようという使命感・倫理観を高めることができる
 2. 教育情報機器及び教材に対する苦手意識を克服し、教育情報機器及び教材の活用に意欲的な人間性を育むことができる
 3. 保育現場における ICT 化推進の動向を知り、適切な教育情報機器及び教材の活用ができるようになる
 4. 保育現場で役立つ教育情報機器及び教材の活用の基本操作を身に付け、保育素材を作ることができる
- 以上を通じて、この授業では、保育に役立つ教育情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることができます。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：学生の情報活用能力チェック
 - 第3回：情報モラル教育の内容
 - 第4回：情報モラル教育の指導法
 - 第5回：ICT を活用した指導方法
 - 第6回：ICT を活用した保育教材の研究
 - 第7回：Society 5.0 で実現する社会と育成すべき資質・能力についての基本
 - 第8回：教育の情報化ビジョン（ICT を活用した教育の推進）
 - 第9回：ICT を活用した保育指導案の作成
 - 第10回：ICT を活用した保育事例の紹介（1） - アナログとデジタルの融合
 - 第11回：ICT を活用した保育事例の紹介（2） - コミュニケーション・ツール
 - 第12回：ICT を活用した模擬保育の実践（1） - 想像と創造をテーマに
 - 第13回：ICT を活用した模擬保育の実践（2） - 対話と思考をテーマに
 - 第14回：幼児期にふさわしい評価の在り方
 - 第15回：模擬保育の振り返り（自己点検と相互評価）
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

予習：次回の演習内容を確認し、授業に必要な材料や情報の収集・整理をしていくこと（1時間）。

復習：授業後は課題制作に取り組み、期限内に完成度の高いものを提出すること（2時間）。

【成績の評価】

成績は、授業への出席時の課題提出（40%）とその出来栄（60%）で評価します。フィードバックは、授業内で課題の作成や調整・修正時に点検しながら行います。

【使用テキスト】

テキストは使用しません。

【参考文献】

- ・堀田博史・松河秀哉・森田健宏編著『保育・幼児教育に携わる人の情報処理テキスト 幼稚園・保育所の保育実践とメディアの活用』（みるめ書房、2013年）
- ・阿部正平・阿部和子・ホソノヨーコ著『保育者のためのパソコン講座 保育事例で習得するワープロ・表計算・プレゼンテーションからホームページ作成』（萌文書林、2006年）

科目名： <PSW111> 子どもの理解と援助

担当教員： 田中 弓子(TANAKA Yumiko)

【授業の紹介】

子ども理解は、保育のあらゆる営みの基本となるものである。

幼稚園等における子どもの生活や遊びの実態に即して、子どもの発達や学び及びその過程で生じるさまざまな、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることなどを授業にて行う。その上で、子どもおよび保護者と温かく接することができる温かな人間性をはぐくむ態度を修得する。

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目でもある。また、本授業科目の単位を認定されることが、2年次前期の「教育実習」を履修するための条件となっている。

本授業科目では課題の提示や提出にあたりGoogle Classroomを使用することがある。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

- 2．自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
- 3．高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力

<学修成果における関連項目>

温かさ

指針・要領の理解

保育に関わる専門的知識の習得

洞察・判断する力

【到達目標】

- 1．幼稚園教育要領および保育所保育指針を理解した上で、子ども理解についての専門的知識を習得することができる。
- 2．発達や学びを捉える原理や意義や教師の基礎的姿勢や資質（使命感、倫理観、教育的愛情、温かな人間性など）ならびに洞察力・判断力を身に付けることができる。
- 3．観察と記録を基軸とする幼児理解の意義と方法を多彩な視点（子ども個々の特性、個と個の関わり、個と集団との関わり、家庭・地域など）から具体的に理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：子ども理解の必要性について
 - 第2回：子ども理解と子どもの発達について
 - 第3回：子ども理解と内面理解について
 - 第4回：子ども理解における保育者の基本姿勢について
 - 第5回：子どもの様々な観察方法について
 - 第6回：個人記録の作成方法について
 - 第7回：個人記録の作成と記録の共有について
 - 第8回：子ども理解の深化にむけた学生自身の課題について
 - 第9回：子どもにとっての他者の関係と影響について
 - 第10回：実践例をもとに、子どもの背景理解について
 - 第11回：子どもの気になる言動とその背景理解について
 - 第12回：保育者の立ち位置から子ども理解の影響について
 - 第13回：保護者の置かれている現状について
 - 第14回：保護者理解と保育者の価値観について
 - 第15回：保護者支援の基本姿勢について
- 定期試験

【授業時間外の学習】

幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を授業前に読んでおく。分からない言葉を調べ、ノートにまとめる。この予習を1時間行う。授業後の復習1時間は、子ども理解および個人記録作成に必要な事項を復習し覚えるようにする。

【成績の評価】

授業の取り組みに対する課題（20％）、個人記録の作成・提出（20％）、定期試験（60％）
定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【参考文献】

適宜紹介する

科目名： < PSW243 > 教育相談
担当教員： 有馬 則子 (ARIMA Noriko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園・こども園で、教員・園長として保護者対応や職員間の相談を行った経験を生かして授業を進めます。

授業内容は、カウンセリングの基礎理論を学ぶとともに、日常的なかかわりの中での子ども、保護者、職員間での教育相談の在り方を、具体的な場面を想定しながら学習し、専門的知識と思考力を身に付け、実践に生かせるようにしていきます。授業の中で、ロールプレイによる簡単なカウンセリング・エクササイズやグループ学習を行います。

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目です。

授業の連絡にあたりGoogle Classroomを使用します。

< 卒業認定・学位授与の方針における関連事項 >

1. 子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観
2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力

< 学修成果における関連事項 >

規範意識

温かさ

協働・連携する力

保育に関わる専門的知識の習得

洞察・判断する力

【到達目標】

1. 幼稚園等における教育相談の意義と理論を理解することによって、使命感や倫理観を高めることができる。
2. 教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解し、保育者として相手を思う気持ちやコミュニケーション力など、豊かな人間性を育むことができる。
3. 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解し、子ども理解に基づいた適切な対応をすることができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、教育相談の意義及び基礎的理論・概念について
 - 第2回：基礎的知識と技法：傾聴と共感
 - 第3回：傾聴と共感の事例演習
 - 第4回：基礎的知識と技法：ポジティブメッセージとリフレーミング
 - 第5回：ポジティブメッセージおよびリフレーミングの事例演習
 - 第6回：基礎的知識と技法：メタフォリカルアプローチとチューニング
 - 第7回：メタフォリカルアプローチ及びチューニングの事例演習
 - 第8回：保護者面談の実際について
 - 第9回：保護者面談の事例演習（子ども同士のトラブルについて）
 - 第10回：保護者面談の事例演習（保護者の子どもへの関わりについて）
 - 第11回：発達に課題をもつ子どもとその保護者へのかかわり
 - 第12回：発達に課題をもつ子どもの保護者へのかかわりの事例演習
 - 第13回：職員間でのカンファレンスと同僚性
 - 第14回：カンファレンスの事例演習とアサーション及びアンガーマネジメント
 - 第15回：時事的教育課題、専門機関との連携
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・授業時に配布された学習シートに授業での学びを整理して記入し、授業後に提出すること。（2時間）
- ・予習として次回の授業内容に関する範囲の指定テキストを読むとともに、専門用語等の意味を調べて事前学習シートに記入し、次回授業時に提出すること。（2時間）

【成績の評価】

- ・事例演習やグループ学習を含め、授業への参加意欲及び態度（20％）、学習シート等の課題提出（40％）、定期試験（40％）を合わせて総合的に評価します。
- ・前回までの学習シートを添削して返却し、振り返りを行うことでフィードバックします。

【使用テキスト】

子どもの理解と保育・教育相談第2版（小田豊・秋田喜代美編（株）みらい 2021年）

【参考文献】

授業の中で適宜紹介します。

科目名： <PRA212> 教育実習事前事後指導

担当教員： 田中 弓子(TANAKA Yumiko), 佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目である。幼稚園・こども園で、教員・園長としての現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行う。

教育実習が円滑に実施され、より効果的に目標が達成されるよう、実習の事前・事後指導を行う授業である。事前指導としては、実習の目的等の概要、実習生としての心得の理解、指導案作成や教材研究、子ども理解など保育者の役割について学ぶ。実習開始前には幼稚園に出向き、子どもや実践活動の状況を、体験を通して学び取る。事後指導としては、振り返りをもとに、各自の課題を明確にしていく。

本学の場合、実習園の協力を得て長期にわたる（１年後期から２年の教育実習開始直前まで）現場体験を可能にしているため、幼児の実態、幼稚園の保育状況を十分理解したうえでの実習により、質の高い保育実践力を身に付けることができるようにしている。

本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目である。

本授業科目では課題の提示や提出にあたりGoogle Classroomを使用することがある。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

- １．子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観
- ２．自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
- ３．高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
- ４．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

規範意識

自律心

指針・要領の理解

保育を計画する力

【到達目標】

- １．教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、保育者としての規範意識、自律心、使命感および倫理観を培い、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
- ２．教育実習で行われる研究保育等に備え保育計画に関する知識を習得できる。
- ３．教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、自己課題の明確化を通して豊かな人間性を育むとともに、教員免許取得までにさらに修得することが必要な知識や技能を理解することができる。

【授業計画】

- 第１回：オリエンテーション、教育実習の概要
 - 第２回：教育実習の心得、態度
 - 第３回：日誌・指導案の書き方
 - 第４回：実習園の概要を知る・保育の流れを把握する
 - 第５回：幼児の活動を体験する
 - 第６回：保育者の関わりを学ぶ
 - 第７回：保育者の援助とその意図を理解する
 - 第８回：前期教育実習の心得、実習生としての役割の最終確認
 - 第９回：前期教育実習の省察を行う
 - 第１０回：課題に対する対策を立てる
 - 第１１回：教材研究の方法
 - 第１２回：研究保育に向けて(指導案の作成)
 - 第１３回：前日指導実習に向けて(注意事項の把握と計画)
 - 第１４回：後期教育実習の概要、目標の整理
 - 第１５回：後期教育実習の省察を行う
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習一時間として、観察参加及び教育実習における各自の課題を見出し、ノートにまとめておくとともに、実技演習や教材準備など積極的に取り組むこと。復習一時間として、幼稚園現場で学んだ内容を観察記録にまとめる。

【成績の評価】

履修にあたって、身だしなみ等の事前指導を行う。これを誠実に守ることが履修の条件となる。

授業参加の態度及び学習シート等の記入・提出（４０％）、指導案の提出（３０％）、定期試験

（３０％）の総合点で評価する。指導案については、個別に添削し返却することでフィードバックする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領（平成 2 9 年 3 月告示 文部科学省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 2 9 年 3 月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【参考文献】

幼稚園教育実習要項（高松短期大学）

科目名： <PRA111> 観察参加

担当教員： 田中 弓子(TANAKA Yumiko), 佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目である。幼稚園・こども園で、教員・園長としての現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行う。

実習協力園にて、保育者や子どもの様子を観察しながら、保育に参加する授業である。観察参加の目的・目標・方法等の概要、現場に出る心得等の理解及び観察の方法等を学んだ後、実際に幼稚園に出向く。幼稚園では、保育の流れを理解し、保育者や子どもの具体的な行動を記録したり、保育者の補助をしながら子どもとかわる中で、多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力に関する知識、技法、態度を修得する。さらに、子どもの思いを理解することや、保育者の援助の実際とその意図を考え、記録にまとめる。

本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目である。また、本授業科目の単位を認定されることが、2年次前期の「教育実習」を履修するための条件となっている。

本授業科目では課題の提示や提出にあたりGoogle Classroomを使用することがある。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

1. 子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観
3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

使命感
指針・要領の理解
保育に関わる専門的知識の習得
洞察・判断する力
子どもと関わる力

【到達目標】

1. 幼児とのかかわりを通して、その実態や課題を把握するとともに、保育者としての使命感及び豊かな人間性を育むことができる。
2. 指導教員等の実施する保育の視点をもって観察し、事実即して記録するとともに、保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高めることができる。
3. 教育実習園の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解することができる。
4. 学級担任等の補助的な役割を担うことで、多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回：観察参加学生としての心得および遵守事項について
 - 第2回：観察参加学生としての課題および観察の視点について
 - 第3回：観察参加園の歴史、教育方針、園組織および園での役割について
 - 第4回：観察記録の必要性および記入上の留意事項について
 - 第5回：観察参加園の1日の生活について
 - 第6回：1日の生活と保育者の援助について
 - 第7回：子どもの遊びと個々の子どもの特性の理解について
 - 第8回：子どもの年齢と発達について
 - 第9回：保育者の援助とその意図について（1）（実習生自身で探る）
 - 第10回：保育者の援助とその意図について（2）（保育者に確認し、理解を深める）
 - 第11回：屋内外の道具と保育環境（安全管理）について
 - 第12回：子どもの活動に注目した観察参加記録の課題について
 - 第13回：保育者の援助に注目した観察参加記録の課題について
 - 第14回：保育者の職務内容を観察した振り返りについて
 - 第15回：様々な場面での子どもへの援助とその課題について
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業の前には、予習として一時間、幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、分からない言葉を調べノートにまとめる。授業後は、復習として一時間、子どもの活動、保育者の援助および環境構成について観察記録を作成する。

【成績の評価】

学内指導での学習シートの記入・提出（15%）、幼稚園観察および記録の内容（60%）、定期試験（25%）

定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領（平成 2 9 年 3 月告示 文部科学省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 2 9 年 3 月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【参考文献】

適宜紹介する

科目名： <PRA213> 教育実習

担当教員： 田中 弓子(TANAKA Yumiko), 佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目である。幼稚園・こども園で、教員・園長としての現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行う。

前期・後期の各2週間、実習園にて保育者と同様の勤務を行いながら、保育の内容・方法、保育者の役割や子どもとのかかわり方等を学ぶ。教育実習事前指導として実習園での事前学習を行うため、子どもや園の様子をある程度認識したうえでの実習となる。さらに、多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力を養うための知識、技法、態度を修得する。

本学建学の精神にある「理論と実践の接点を開拓する」ために、事前指導で確認した課題をもとに、理論に根差した保育実践力を身に付ける機会にもなる。

本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目である。

本授業科目では課題の提示や提出にあたりGoogle Classroomを使用することがある。

<卒業認定・学位授与の方針における関連項目>

- 1．子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観
- 2．自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
- 3．高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
- 4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

使命感

協働・連携する力

保育に関わる専門的知識の習得

洞察・判断する力

表現技術と創造力

保育を計画する力 子どもと関わる力

子どもと関わる力

【到達目標】

- 1．幼稚園教育要領及び幼児の実態を踏まえた適切な指導案（保育の計画）を作成し、保育を実践することができる。
- 2．保育に必要な基礎的表現技法と創造力（話法、保育形態、保育展開、環境構成等）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。
- 3．学級担任の役割と職務内容および保育に関わる専門的知識を実地に即して理解し、保育者としての使命感および倫理観を培い、将来保育者になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚することができる。
- 4．様々な活動の場面で適切に幼児とかかわり、洞察・判断する力を培うとともに豊かな人間性を育むことができる。

【授業計画】

前期＜第1週＞

1. 実習園の概要を知る
2. 1日の流れを把握する
3. 幼児の遊びの状況を理解し参加する
4. 年齢段階により遊び、生活、課題への取り組みの違いを知る
5. 幼児の行動観察、記録とその活用について学ぶ
6. 実習記録のとり方、反省、評価について学ぶ
7. 安全に対する配慮、清掃、環境整備のしかたを知る

＜第2週＞

1. 年間指導計画の中での現在の保育を理解する
2. 配属クラスの個々の子どもの特徴を知る
3. いろいろな子どもとの関係を深める
4. 保育の中の指導と援助のあり方を探る
5. 部分実習をする
6. 保育実践の反省、評価を受ける
7. 園行事に参加し、行事の在り方について考える

後期＜第3週＞

1. 前期から比べて子どもの成長発達を理解する
2. グループダイナミックスの様子を知る
3. 学級経営について学ぶ（グループ編成、当番活動を含む）
4. 特別な配慮を必要とする子どもへのかかわり方を知る
5. 季節の行事に関しての保育を知る
6. 研究保育をする（保育計画を立案し、実践する）
7. 保育実践の反省、評価を受け、その問題点を整理する
8. 園と家庭のとの連携についてその意義と方法を知る

＜第4週＞

1. 保育室の環境整備・経営について知り実践する
2. 幼稚園教諭について職務内容を理解する
3. 地域との協力関係、幼稚園の社会的意義を理解する
4. 園の特色ある保育についての理解を深める
5. 子育て支援についての特別保育（預かり、延長、未就園児保育等）の現状を知る
6. 全日保育の計画、実践をする
7. 総合的に子ども・保護者・幼稚園を理解する
8. 実習反省会、お別れ会
9. これからの課題についてまとめ、助言を受ける

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

教育実習園に関する事前学習を行った上で、教育実習で使用する教材（絵本の読み聞かせ、ペープサート、ピアノ）の準備を行う。教育実習後は、課題となったこと（教材作成、ピアノ練習など）の克服に向け取り組む。教育実習前と後を合わせて54時間行う。

【成績の評価】

幼稚園からの評価に基づいて成績評価する。具体的には、実習への取り組み（10％）、幼児理解（15％）、幼児との関わり（15％）、指導の立案（15％）、指導の実際（15％）、環境整備（15％）、勤務態度（15％）である。また、教育実習事前事後指導と有機的に連動するため、どちらか一方の成績だけが認定されることはない。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【参考文献】

幼稚園教育実習要項（高松短期大学）

科目名： <COM203> 保育・教職実践演習（保・幼）

担当教員： 田中 弓子(TANAKA Yumiko), 出木浦 孝(DEKIURA Takashi), 岡谷 崇史(OKATANI Takafumi), 佐々木 利子(SASAKI Toshiko), 相馬 宗胤(SOMA Munetane), 有馬 則子(ARIMA Noriko), 辻野 栄一(TSUJINO Eiichi), 森本 将行(MORIMOTO Masayuki)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育園、幼稚園、こども園での保育・教育の現場経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

保育実習ならびに教育実習を終えた学生を対象に、保育者（先生）になるための2年間の学びを、これまでの学びの復習を含めて総括するとともに、足りない内容を補完する授業です。また、保育者としての最低限の資質能力を有しているかどうかを確認する授業でもあります。

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状、及び保育士資格取得のための必修科目です。なお、本授業科目では課題の指示や提出にあたりGoogleClassroomも使用することもあります。

<卒業認定・学位授与の方針における関連科目>

1. 子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観
2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

<学修成果における関連項目>

使命感
望ましい行動
規範意識
自律心
温かさ
協働・連携する力
指針・要領の理解
保育に携わる専門的知識の習得
洞察・判断する力
表現技術と創造力
保育を計画する力
子どもと関わる力

【到達目標】

1. 2年間の学びの総括として、これまで以上に保育を多角的に考えることができる。
2. 保育者の役割を広く理解し、使命感や責任感、社会性をより高めることができる。
3. 多様な学びの機会を活かし、子ども理解をより深めることができる。
4. 保育計画や教材研究を通し、保育内容の指導力を高めることができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション／これからの授業の進めかた（田中）
第2回：これまでの学びの振り返り（相馬）
第3回：現役保育者の講話を聴くことを通して保育職の実感を実感し、今何をすべきかを理解する（佐々木）
第4回：第3回をふまえ、現役保育者と意見交換する（担当者全員）
第5回：保育者に求められる立ち居振る舞いを実践する（担当者全員）
第6回：第5回の実践を相互評価する（担当者全員）
第7回：保育現場における危機管理の基本を理解する（有馬）
第8回：さまざまな事例を通して、危機管理の実感を学ぶ（有馬）
第9回：特別支援教育の実践について学ぶ（佐々木）
第10回：保こ幼小連携の取り組みの実感を学ぶ（佐々木）
第11回：クラス経営のあり方、方法を学ぶ（有馬）
第12回：実習園の保護者との意見交換を通して保護者の思いを知る（田中）
第13回：保育者の倫理を再確認する（相馬）
第14回：さまざまな事例を通して保育者の倫理を深める（相馬）
第15回：実習園の教頭を招き、保育職・教職の意義と役割について理解を深める（田中）
第16回：保育現場におけるトラブル対応についてディスカッションを行い、外部講師より講評をいただく（田中）
第17回：保育内容造形にかかわるロールプレイング第1回目（岡谷、辻野）
第18回：保育内容造形にかかわるロールプレイング第2回目（岡谷、辻野）
第19回：保育内容音楽表現にかかわるロールプレイング第1回目（出木浦）
第20回：保育内容音楽表現にかかわるロールプレイング第2回目（出木浦）
第21回：保育内容健康にかかわるロールプレイング第1回目（森本）
第22回：保育内容健康にかかわるロールプレイング第2回目（森本）
第23回：社会性と対人関係（中村）
第24回：実地調査事前指導（田中）
第25回：実地調査：時期や発達をふまえた環境構成と保育の展開の実感を調査する（田中、佐々木、有馬）
第26回：実地調査：保育の各場面における保育者の関わりの実感を調査する（田中、佐々木、有馬）
第27回：実地調査事後指導（田中）
第28回：保育者としての在り方確認（田中）
第29回：保育者にふさわしい常識やマナーを再確認する（田中）
第30回：総括：保育者としてふさわしい資質を習得できたか自ら振り返る（相馬）
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

2年間の総括としての授業であるため、各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育所や幼稚園等での保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと（合計30時間以上）。

【成績の評価】

授業に取り組む意欲・関心・態度（20%）、模擬保育での発表および学習シートやポートフォリオ等の課題の記入や提出（80%）で評価します。

課題の返却により振り返りを行うことでフィードバックします。

【使用テキスト】

その都度プリントを配布します。

【参考文献】

- 保育所保育指針解説（厚生労働省、フレーベル館、2018年）
幼稚園教育要領解説（文部科学省、フレーベル館、2018年）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018年）